

# ***SYLLABUS***

**2020 年度 講義要項**

**2 年（2019 年度入学生）**

**和歌山信愛大学**

和歌山信愛大学 教育学部 子ども教育学科 2020年度 シラバス 目次 2年 (2019年度入学生)

| 科目区分               |                                      | 授業科目的名称        | 教員名               | 実務家教員* | 単位数 | 配当年次               | 授業形態            | 卒業に必要な科目・単位数 | 頁     |  |
|--------------------|--------------------------------------|----------------|-------------------|--------|-----|--------------------|-----------------|--------------|-------|--|
| 共通基礎科目             | 教養科目<br>の信基教育                        | 信愛教育 II        | 星野正道              | *      | 1   | 2 通年               | 演習              | ●            | 1-2   |  |
|                    |                                      | 人類生態学概論        | 松本健治              |        | 2   | 2 前期               | 講義              | ○            | 3     |  |
|                    |                                      | 子どもと文学         | 大橋真由美             | *      | 2   | 2 前期               | 講義              | ○            | 4     |  |
|                    |                                      | こころの科学         | 桑原義登              | *      | 2   | 2 後期               | 講義              | ○            | 5     |  |
|                    |                                      | 生命と進化          | 芝田史仁              |        | 2   | 2 後期               | 講義              | ○            | 6     |  |
|                    | 教育者<br>の教養                           | 現代メディア論        | 伊藤宏               | *      | 2   | 2 前期               | 講義              | ○            | 7     |  |
|                    |                                      | フランス語コミュニケーション | 小川紗子              |        | 1   | 2 前期               | 演習              | ○            | 8     |  |
|                    |                                      | 中国語コミュニケーション   | 相川恵               | *      | 1   | 2 前期               | 演習              | ○            | 9     |  |
|                    | 地域連携科目<br>世界かの<br>や国まと<br>科探地<br>目求域 | 情報処理演習 II      | 大山輝光              |        | 1   | 2 前期               | 演習              | ●            | 10    |  |
|                    |                                      | まちづくりの経済学      | 濱田智司              | *      | 2   | 2 前期               | 講義              | ○            | 11    |  |
|                    |                                      | 地域の生活文化        | 千森督子              |        | 2   | 2 前期               | 講義              | ○            | 12    |  |
|                    |                                      | 文学と郷土          | 平松正昭              | *      | 2   | 2 後期               | 講義              | ○            | 13    |  |
|                    |                                      | 地域力再生論         | 千森督子 江口怜          |        | 2   | 2 前期               | 講義              | ●            | 14    |  |
|                    |                                      | 地域連携フィールドゼミナール | 千森 森崎 森下<br>小田 江口 |        | 4   | 2 通年               | 演習              | ●            | 15-16 |  |
| 専門教育科目             | 理念論・                                 | 社会福祉           | 太田作也              | *      | 2   | 2 前期               | 講義              | ●            | 17    |  |
|                    |                                      | 社会的養護          | 桑原義登              | *      | 2   | 2 後期               | 講義              | ●            | 18    |  |
|                    | 教科・保育内容の専門領域                         | 国語（書写を含む）      | 小林康宏 鈴木晴久         | *      | 2   | 2 前期               | 講義              | ○            | 19    |  |
|                    |                                      | 算数             | 山本紀代              | *      | 2   | 2 後期               | 講義              | ○            | 20    |  |
|                    |                                      | 理科             | 秋吉博之              | *      | 2   | 2 前期               | 講義              | ○            | 21    |  |
|                    |                                      | 社会             | 西端幸信              | *      | 2   | 2 後期               | 講義              | ○            | 22    |  |
|                    |                                      | 器楽             | 桐山由香 溝口希久生        | *      | 2   | 2 通年               | 演習              | ○            | 23-24 |  |
|                    |                                      | 体育             | 大平誠也              | *      | 1   | 2 前期               | 演習              | ○            | 25    |  |
|                    |                                      | 家庭             | 千森 中根 嘉本          | *      | 1   | 2 後期               | 演習              | ○            | 26    |  |
|                    |                                      | 初等英語           | 辻伸幸               | *      | 1   | 2 後期               | 演習              | ○            | 27    |  |
|                    |                                      | 子どもの表現 II      | 戸潤幸夫 桐山由香         | *      | 1   | 2 前期               | 演習              | ○            | 28-29 |  |
|                    | 子ども理解                                | 幼児理解の理論と方法     | 村上凡子              | *      | 2   | 2 前期               | 講義              | ●            | 30    |  |
|                    |                                      | 子どもの保健 IA      | 内海みよ子             |        | 2   | 2 前期               | 講義              | △            | 31    |  |
|                    |                                      | 子どもの保健 IB      | 内海みよ子             |        | 2   | 2 後期               | 講義              | △            | 32    |  |
|                    | 教育・保育の指導法                            | 保育内容の指導法 I     | 山下悦子              | *      | 2   | 2 後期               | 演習              | ●            | 33-34 |  |
|                    |                                      | 初等教科教育法（国語）    | 小林康宏 鈴木晴久         | *      | 2   | 2 後期               | 講義              | ●            | 35    |  |
|                    |                                      | 初等教科教育法（生活）    | 秋吉博之              | *      | 2   | 2 後期               | 講義              | ●            | 36    |  |
|                    |                                      | 初等教科教育法（音楽）    | 溝口希久生             | *      | 1   | 2 後期               | 演習              | ●            | 37    |  |
|                    |                                      | 初等教科教育法（図画工作）  | 戸潤幸夫              | *      | 1   | 2 後期               | 演習              | ●            | 38    |  |
|                    |                                      | 初等教科教育法（体育）    | 大平誠也              | *      | 1   | 2 後期               | 演習              | ●            | 39    |  |
|                    |                                      | 特別活動指導論        | 谷尻治               | *      | 1   | 2 後期               | 講義              | △            | 40    |  |
|                    | 実習                                   | 幼稚園実習 I        | 小田真弓              | *      | 2   | 2 通年               | 実験実習            | △            | 41    |  |
|                    |                                      | 幼稚園実習指導 I      | 小田真弓              | *      | 1   | 2 通年               | 演習              | △            | 42-43 |  |
|                    |                                      | 保育実習 I (施設)    | 森下順子              | *      | 2   | 2 後期<br>3 前期<br>通年 | 実験実習            | △            | 44    |  |
|                    |                                      | 保育実習指導 I (施設)  | 森下順子              | *      | 1   | 2 後期<br>3 前期<br>通年 | 演習              | △            | 45-46 |  |
| 2年合計単位数            |                                      |                |                   |        |     | 66                 | 省令で定める基準単位数13単位 |              |       |  |
| (うち、実務家教員による単位数)   |                                      |                |                   |        |     | 47                 |                 |              |       |  |
| 学部内全学年(1年・2年)合計単位数 |                                      |                |                   |        |     | 126                |                 |              |       |  |
| (うち、実務家教員による単位数)   |                                      |                |                   |        |     | 92                 |                 |              |       |  |

|        |
|--------|
| ● 必修   |
| ○ 選択必修 |
| △ 選択   |

# シラバス（Syllabus 講義要項）の利用方法

## 1 シラバスとは何か

シラバスとは、各授業科目の内容を詳しく記載した文書です。シラバスを見ることにより、当該授業でどのようなことを学べるのか、詳しく知ることができます。

## 2 シラバスの活用方法

### (1) 履修する科目的選択

学生の皆さんには『履修のてびき』、シラバスおよび時間割表を参照し、自分が今年度に履修すべき授業科目を確認の上、期間内に履修登録を行ってください。なお、シラバスは大学ホームページでも公開します。

### (2) 教科書・教材の準備

履修する科目が決まったら、シラバスの記載をもとに教科書や教材を準備しておいてください。なお、教科書購入方法については別途案内します。

### (3) 時間割・教室の確認

時間割および教室は、ガイダンス等で公表される時間割表を確認してください。

### (4) 予習・復習内容の確認

シラバスでは、授業時間中の教育内容はもちろん、授業前後の予習・復習、レポートや課題など、授業時間外での学習についても詳細に記載されています。これは学生の皆さんのが授業内容を確実に修得することを支援しています。

### (5) オフィスアワーの活用

授業に関することで分からぬことや相談したいことがあれば、担当教員のオフィスアワーを利用して、研究室を訪問してください。オフィスアワーにて各教員が在室している時間帯がわかります。

### (6) 成績評価方法の確認

シラバスには、学生が当該授業で到達すべき目標を設定しています。学生がその目標に到達したかを確認するため、成績評価が行われます。成績評価の方法は、シラバスに具体的に記載されており、学生はそれを見ることによって、自分の学習内容がどのように評価されるのかを予め確認することができます。また、成績評価の終了後、自分の成績評価に異議のある場合は、シラバスの成績評価に関する記載をもとに質問することができます。異議申し立ての手続きに関しては『履修のてびき』を確認してください。

### (7) 授業改善

大学における授業は、原則シラバスに基づいて行われます。したがって、シラバスの改善が授業の改善につながります。シラバスの記載に不明な点がある場合は、積極的に担当教員に質問してください。

### 3 シラバスの見方

#### (1) 配当年次

当該授業科目を履修できる年次を記載しています。

#### (2) 開講期

「前期」「後期」「通年」の区分があります。

#### (3) 科目名

当該授業科目の名称を記載しています。

#### (4) 担当者

当該授業科目を主として担当する教員の名前を記載しています。

#### (5) 単位

当該授業科目を修得した場合に与えられる単位数を記載しています。

#### (6) 卒業 必・選

卒業するために必要な必修科目・選択必修科目・選択科目を記載しています。また、卒業要件とは別に、免許・資格取得に関わる必修科目・選択必修科目があるので、間違わないようにしてください。詳細は『履修のてびき』を参照してください。

#### (7) 授業形態

「講義」「演習」「実験・実習」の区分があります。

#### (8) 授業の概要

当該授業科目のテーマ、ねらい、内容の概要などについて記載しています。

#### (9) 授業の目標

学生が当該授業科目において到達すべき目標（「この授業を受け終った学生は、何ができるようになっているか」）を具体的に記載しています。授業の目標は成績評価に密接に関わっているので、よく確認してください。

#### (10) 授業のテーマ及び内容

各回の授業内容を授業の展開に沿って具体的に記載しています。授業を受ける前に必ず確認し、各回の授業内容と授業全体の流れを頭に入れるよう心掛けてください。

#### (11) 成績評価方法

成績評価の方法（定期試験、課題レポート、提出物など）、評価の割合などについて具体的に記載しています。

#### (12) 教科書・参考書

教科書は授業を受けるにあたって必ず入手すべき文献であり、必要なものです。参考書は当該授業の内容についてより発展的に自主学習を行いたい場合に参照する文献です。また適宜教材として担当教員より指示がある場合があります。

#### (13) 授業外の学習方法

授業外における予習・復習について具体的に指示しています。

#### (14) 免許・資格

免許・資格のために必要な必修科目・選択必修科目を記載しています。卒業要件に関わる必修科目・選択必修科目・選択科目と区別して、間違わないようにしてください。

#### (15) 実務経験と教授内容

当該授業科目を担当する教員が、その分野でどのような実務経験をもっているかを記載しています。

# **共通基礎科目**



| 配当年次  | 開講期                        | 科目名   | 担当者  | 単位      | 卒業必・選                          | 授業形態 |
|-------|----------------------------|---|------|---------|--------------------------------|------|
| 2     | 通年                         | 信愛教育Ⅱ   | 星野正道 | 1       | 必修                             | 演習   |
| 授業の概要 |                            | カトリック精神を基盤とした豊かな人間性と支援型リーダーシップの涵養を目指す科目である。旧・新約聖書の内容を読み解くと共に、キリスト教のミサに参加する中で、奉仕や支援を通して地域に必要不可欠な「地の塩」となり、「世の光」として周囲の人々の信頼を得て活躍する支援型リーダーとしての心構えを学ぶ。   |      |         |                                |      |
| 授業の目標 |                            | 信愛教育Ⅰで学習した本学の建学の精神がバックアップする愛と奉仕の道を前提にしつつ、それを保育・教育において実現するために、自分の内面をふり返り自分をどのように成長させていったらよいかを考える。各人なりに自分の知の地平を広げる。今までの生育歴の中で習慣的に身につけているものの見方、考え方を乗り越え、新しい地平で現実をとらえられるようになることで自己肯定感と他者を受容する力を高める。 |      |         |                                |      |
| 回     | 授業のテーマ及び内容                 |   |      | 各回 50 分 |                                |      |
| 1     | 信愛教育について この授業の概要           |   |      | 8       | 勤勉とアイデンティティについて 聖書との関連         |      |
| 2     | ショファイユの幼きイエズス修道会の靈性 聖書との関連 |   |      | 9       | 勤勉とアイデンティティについての集団討議とプレゼンテーション |      |
| 3     | 人間の内面の成長と発達の一般基本原理         |   |      | 10      | 親交と生産性について 聖書との関連              |      |
| 4     | 信頼について 聖書との関連              |   |      | 11      | 親交と生産性についての集団討議とプレゼンテーション      |      |
| 5     | 信頼についての集団討議とプレゼンテーション      |   |      | 12      | 円熟について 聖書および建学の精神との関連          |      |
| 6     | 自律・自発性について 聖書との関連          |   |      | 13      | 円熟についての集団討議とプレゼンテーション          |      |
| 7     | 自律・自発性についての集団討議とプレゼンテーション  |   |      | 14      | 前期の自分をふり返ってみよう。                |      |

| 配当年次      | 開講期                         | 科目名  | 担当者     | 単位                          | 卒業必・選 | 授業形態 |  |  |  |
|-----------|-----------------------------|--|---------|-----------------------------|-------|------|--|--|--|
| 2         | 通年                          | 信愛教育Ⅱ  | 星野正道    | 1                           | 必修    | 演習   |  |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                  |  | 各回 50 分 |                             |       |      |  |  |  |
| 15        | 「君たちはどう生きるか」授業の概要 ものの見方について |  | 22      | 人間の悩みと、過ちと、偉大さについて 建学精神との関連 |       |      |  |  |  |
| 16        | ものの見方についての集団討議とプレゼンテーション    |  | 23      | 君たちはどう生きるか集団討議とプレゼンテーション    |       |      |  |  |  |
| 17        | 真実の経験について                   |  | 24      | 性的マイノリティ 聖書との関連             |       |      |  |  |  |
| 18        | 人間の結びつきについて                 |  | 25      | 性的マイノリティと子どもたち              |       |      |  |  |  |
| 19        | 人間の結びつきについての集団討議とプレゼンテーション  |  | 26      | 性的マイノリティと教育                 |       |      |  |  |  |
| 20        | 人間であるからには                   |  | 27      | 小さき者と共に歩む信愛の姿 建学の精神との関連     |       |      |  |  |  |
| 21        | 偉大な人間とはどんな人間か               |  | 28      | 後期をふり返ってみよう。 集団討議とプレゼンテーション |       |      |  |  |  |
| 成績評価方法    |                             | (1)プレゼンテーションと傾聴への取り組み 50%<br>(2)リアクションペーパー 10%<br>(3)定期試験 40%  |         |                             |       |      |  |  |  |
| 教科書       |                             | 『聖書～新共同訳～〈N I 44DC〉』日本聖書協会(1996年12月)<br>漫画『君たちはどう生きるか』マガジンハウス(平成29年8月24日)原作：吉野源三郎  |         |                             |       |      |  |  |  |
| 参考書       |                             | 適宜、資料を紹介する。  |         |                             |       |      |  |  |  |
| 授業外の学習方法  |                             | 授業で扱った内容を各自の現実の生活に生かそうしたり、世の中で起こっている子どもを巡るさまざまな問題や事件の根底にある課題としてとらえ、それにクリティカルに対峙し自分なりの解決方法を考えること。   |         |                             |       |      |  |  |  |
| 免許・資格     |                             |  |         |                             |       |      |  |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                             | 担当教員自身の幼稚園・小学校で園児・児童に教育にあたった経験と保護者・父母・幼稚園教諭への研修をもとに教育現場や保護者からの具体的要望や問題についても講義し対応への模擬体験を行う。<br>担当教員がカトリック教会の指導者としてかかわっている信愛の創立母体・ショファイユの幼きイエズス修道会会員の日本社会への貢献方法と、カトリック教会を通して出会う多くの人々の現実生活を紹介することによって学生たちの現代社会に取り組む姿勢を養う。 |         |                             |       |      |  |  |  |

| 配当年次      | 開講期                                | 科目名   | 担当者   | 単位       | 卒業必・選                                  | 授業形態 |  |  |
|-----------|------------------------------------|---|-------|----------|--|------|--|--|
| 2         | 前期                                 | 人類生態学概論   | 松本 健治 | 2        | 選必                                     | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                                    | 人間の健康と環境との関係についての学問である人類生態学を学ぶことによって、自然の生態系を乱さず、人間の生存にとって好ましい外部環境を調整する方策を考究する。また、講義を通して、地球温暖化など地球規模の環境問題について幅広い知識を身に着け、あらゆる生命体の生命の質（QOL）は様々な環境要因によって左右されることを修得理解できるようになり、将来、教育専門職としての基礎的な教養が身に付くことを目的とする。 |       |          |  |      |  |  |
| 授業の目標     |                                    | 人類生態学について最新の研究情報や社会的な話題など、様々な事例を取り上げながら講義を行う。予習内容として60分を目途に事前配布資料を通読することおよび復習内容として90分を目途に配布資料中にある課題についてミニ・レポートする。   |       |          |  |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                         |   |       | 各回 100 分 |  |      |  |  |
| 1         | 環境と人類との相互関係、生態系の営み                 |   |       | 8        | 食の安全性をめぐって                             |      |  |  |
| 2         | 物理的環境（その1）温熱条件、騒音、振動               |   |       | 9        | 衣服環境と住居環境、シックハウス症候群                    |      |  |  |
| 3         | 物理的環境（その2）電磁波、異常気圧                 |   |       | 10       | 水をめぐる問題                                |      |  |  |
| 4         | 化学的環境（その1）「空気」を中心に                 |   |       | 11       | 公害の人類への影響、環境保全の原則                      |      |  |  |
| 5         | 化学的環境（その2）有害化学物質の吸收、障害の予防、変異原と催奇形原 |   |       | 12       | 地球環境問題（その1）地球環境と生活、残留性有機汚染物質、内分泌攪乱化学物質 |      |  |  |
| 6         | 生物的環境（その1）病原微生物、病原体を保有または媒介する動物    |   |       | 13       | 地球環境問題（その2）オゾン層の破壊、地球温暖化、有害廃棄物の越境移動    |      |  |  |
| 7         | 生物的環境（その2）寄生虫、有毒動植物を中心             |   |       | 14       | 地球環境問題（その3）酸性雨、砂漠化、熱帯林減少、野生生物種減少、海洋汚染  |      |  |  |
| 成績評価方法    |                                    | 定期試験 80%，出席状況とミニレポートを含む受講態度 20%   |       |          |  |      |  |  |
| 教科書       |                                    | 事前に講義内容の抄録と関連資料を配布します。  |       |          |  |      |  |  |
| 参考書       |                                    | 適宜紹介する。   |       |          |  |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                                    | 週2時間程度の予習・復習を行うこと。<br>試験対策の時間を確保すること。   |       |          |  |      |  |  |
| 免許・資格     |                                    |   |       |          |  |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                                    |   |       |          |  |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                    | 科目名   | 担当者    | 単位       | 卒業必・選                        | 授業形態 |  |  |
|-----------|------------------------|---|--------|----------|------------------------------|------|--|--|
| 2         | 前期                     | 子どもと文学  | 大橋 真由美 | 2        | 選必                           | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                        | 子どもは、身近な人やものと関わりながら、発達・発育していく。新生児であっても、大人の語り掛けに反応する。発達・発育に伴い、絵本に興味を持ち、紙芝居を友達と共有でき、静かにおはなしを聞くことができるようになる。そのような文学体験が、人間関係を育み、豊かな言葉や表現の獲得につながる。ここでは、おはなし、絵本、紙芝居を中心にして、その概要を学び、具体例を示しながら、それらの魅力を探る。教育者・保育者自らの文学体験が、子ども理解につながり、子どもの言葉や表現を導き、子どもの発達・発育を促すことを学ぶ。 |        |          |                              |      |  |  |
| 授業の目標     |                        | 自らの文学体験を高め、子どもの感性と想像力を育むための指導方法を修得する。   |        |          |                              |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容             |   |        | 各回 100 分 |                              |      |  |  |
| 1         | 「子どもと文学」を学ぶことの意義       |   |        | 8        | 紙芝居の歴史と構造                    |      |  |  |
| 2         | 「子どもと文学」をめぐる施設と活動      |   |        | 9        | 紙芝居の様々                       |      |  |  |
| 3         | わらべうた・おはなし・幼年文学        |   |        | 10       | 子どもの視点で紙芝居を楽しむ               |      |  |  |
| 4         | 絵本の様々                  |   |        | 11       | 「おはなし会」の企画（1）<br>対象・テーマなどの設定 |      |  |  |
| 5         | 絵本、保育に於ける実践事例（1） 0～2歳児 |   |        | 12       | 「おはなし会」の企画（2）<br>プログラムの作成    |      |  |  |
| 6         | 絵本、保育に於ける実践事例（2） 3・4歳児 |   |        | 13       | 「おはなし会」の企画（3）<br>グループで発表     |      |  |  |
| 7         | 絵本、保育に於ける実践事例（3） 5歳児など |   |        | 14       | 「おはなし会」の企画（4）<br>発表と相互評価     |      |  |  |
| 成績評価方法    |                        | 定期試験 50%，毎授業時に提出の小レポート 30%，「おはなし会」相互評価 20%  |        |          |                              |      |  |  |
| 教科書       |                        | 『保育者と学生・親のための 乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』ミネルヴァ書房(2009) 福岡貞子ほか編著<br>『新版 児童文化』ななみ書房(2016)皆川美恵子ほか編著   |        |          |                              |      |  |  |
| 参考書       |                        | 『ことばと表現力を育む 児童文化』萌文書林(2013) 川勝泰介ほか編著<br>『保育の中の絵本』かもがわ出版(2015) 正置友子ほか編著  |        |          |                              |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                        | 次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと、及び、グループでの企画・発表と試験対策のための時間も確保すること（週2時間程度）。  |        |          |                              |      |  |  |
| 免許・資格     |                        | 幼稚園教諭免許選択必修科目   |        |          |                              |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                        | 保育実務および図書ボランティア経験のある教員が全回を担当  |        |          |                              |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                   | 科目名  | 担当者  | 単位       | 卒業必・選               | 授業形態 |  |  |
|-----------|-----------------------|--|------|----------|---------------------|------|--|--|
| 2         | 後期                    | こころの科学   | 桑原義登 | 2        | 選必                  | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                       | 「こころ」について、臨床心理学的理解の仕方を学ぶ科目である。こころと行動のメカニズムなどの基礎知識や心理学の諸理論について学ぶことにより、人と人との関わりや環境が人間の心や行動にどのように影響するかを考えもらう。行動観察・生育歴の調査・心理検査などによる臨床心理学的な見立てやカウンセリングなどの臨床心理面接技法などによる手立ての方法についても学んでもらう。心理学の基礎知識を基本にして、社会的に問題になっているいじめ・不登校などの問題行動の理解の仕方や心理学的支援の仕方についても身につけてもらう。 |      |          |                     |      |  |  |
| 授業の目標     |                       | こころと行動のメカニズムなどの心理学の基礎知識や臨床心理学的な応用力を学ぶことにより、保育や教育等の現場での子ども理解や課題となる行動を見立てる力量（アセスメント）と手立てを行う力量（臨床心理学的支援）を身につける。   |      |          |                     |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容            |  |      | 各回 100 分 |                     |      |  |  |
| 1         | 心理学を学ぶ意義と基本的な考え方      |  |      | 8        | 面接や観察による臨床心理学的見立て   |      |  |  |
| 2         | 心理学の歴史と学派             |  |      | 9        | 心理検査による臨床心理学的見立て    |      |  |  |
| 3         | こころの発達とライフサイクルの視点     |  |      | 10       | 臨床心理学的支援のあり方        |      |  |  |
| 4         | 動機付け・情動・性格・知能などの基礎知識  |  |      | 11       | 不登校の臨床心理学的理解と支援     |      |  |  |
| 5         | 感覚・知覚・記憶・学習・適応などの基礎知識 |  |      | 12       | いじめの臨床心理学的理解と支援     |      |  |  |
| 6         | ストレスとメンタルヘルス          |  |      | 13       | 発達期の障害への臨床心理学的理解と支援 |      |  |  |
| 7         | 精神分析による心のしくみと防衛機制     |  |      | 14       | 事例検討による臨床心理学的理解と支援  |      |  |  |
| 成績評価方法    |                       | 定期試験 70%, 授業の最後に行う小レポート 20%, 授業への取り組み 10%  |      |          |                     |      |  |  |
| 教科書       |                       | 『はじめての心理学概論』ナカニシヤ出版 古見文一 他著  |      |          |                     |      |  |  |
| 参考書       |                       | なし   |      |          |                     |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                       | 子どもの行動をよく観察しておき、問題意識を持って授業に臨んで欲しい。（週2時間程度）試験対策の時間も確保すること。  |      |          |                     |      |  |  |
| 免許・資格     |                       |  |      |          |                     |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                       | 児童相談所心理専門職と臨床心理士としてのスクールカウンセラー等の経験者が全ての回を担当  |      |          |                     |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                | 科目名  | 担当者   | 単位       | 卒業必・選           | 授業形態 |  |  |
|-----------|--------------------|--|-------|----------|-----------------|------|--|--|
| 2         | 後期                 | 生命と進化  | 芝田 史仁 | 2        | 選必              | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                    | 生物進化の仕組みとその基盤となる生物学の基礎を学ぶ科目である。生命の定義とその起源、細胞、遺伝子と遺伝の仕組み、突然変異、自然選択、性選択、遺伝的浮動、種分化など、生物種の多様性をもたらす仕組みについて、最新の研究成果に基づくデータを紹介しながら解説する。 |       |          |                 |      |  |  |
| 授業の目標     |                    | 細胞や遺伝子など、生命の基本的成り立ちや、生物種の多様性をもたらす仕組みについての理解を深め、太古から続く生命連鎖への理解に基づく生命観と、命への真摯な態度を身につけることを目標とする。                                    |       |          |                 |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容         |  |       | 各回 100 分 |                 |      |  |  |
| 1         | イントロダクション：生命の定義と起源 |  |       | 8        | 性淘汰             |      |  |  |
| 2         | 遺伝子と細胞             |  |       | 9        | 育児行動の進化         |      |  |  |
| 3         | 突然変異と自然淘汰          |  |       | 10       | 配偶システムの進化       |      |  |  |
| 4         | 種の起源と種分化           |  |       | 11       | 性の配分            |      |  |  |
| 5         | 種間関係の進化            |  |       | 12       | 社会行動の進化(血縁淘汰)   |      |  |  |
| 6         | 資源を巡る競争            |  |       | 13       | 協力行動の進化         |      |  |  |
| 7         | 集団行動の進化            |  |       | 14       | 大進化と大量絶滅<br>まとめ |      |  |  |
| 成績評価方法    |                    | 定期試験 80%, 授業へ取り組む姿勢・態度 20%   |       |          |                 |      |  |  |
| 教科書       |                    | 指定しない  |       |          |                 |      |  |  |
| 参考書       |                    | 『進化の教科書第1～3巻』講談社 カール・ジンマー、ダグラス・J・エムレン著<br>『行動生態学 原著第4版』共立出版 デイビス・クレブス・ウェスト著  |       |          |                 |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                    | 週2時間程度の復習を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。   |       |          |                 |      |  |  |
| 免許・資格     |                    |  |       |          |                 |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                    |  |       |          |                 |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                   | 科目名  | 担当者  | 単位       | 卒業必・選                | 授業形態 |  |  |
|-----------|-----------------------|--|------|----------|----------------------|------|--|--|
| 2         | 前期                    | 現代メディア論  | 伊藤 宏 | 2        | 選必                   | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                       | 私たちは情報の中に生きているといつても過言ではなく、情報に無縁の生活はあり得ない。いわゆる高度情報化社会で生きていくためには、良質な情報を入手し、それらを正確に読み解いた上で的確な判断をなし得るスキルが必須となる。そこで、情報を提供するメディアに着目して、まずその特性について学んでいく。そして、マスメディアの具体的な活動と、提供された情報の内容を通して、現状と問題点について様々な側面から考察する。 |      |          |                      |      |  |  |
| 授業の目標     |                       | 到達目標は、<br>1)様々なメディアの特徴や問題点について理解する。<br>2)メディアから得られる情報の収集法、活用法を理解する。<br>3)現代社会の状況を情報発信、情報受信の観点から理解する。<br>4)情報を使いこなし、それに基づいて自分の考えを述べられるようになることである。   |      |          |                      |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容            |  |      | 各回 100 分 |                      |      |  |  |
| 1         | はじめに～メディアとは何か         |  |      | 8        | 「ニュース」とは何であるか        |      |  |  |
| 2         | メディアの発達史              |  |      | 9        | メディアと企業論理            |      |  |  |
| 3         | パーソナルメディアと日常生活        |  |      | 10       | メディアと客観報道            |      |  |  |
| 4         | マス・コミュニケーションとメディア     |  |      | 11       | メディアと政治権力            |      |  |  |
| 5         | メディアとジャーナリズムとの関わり     |  |      | 12       | メディアと人権              |      |  |  |
| 6         | マスメディアの特徴とその論理        |  |      | 13       | インターネット情報の特徴と問題点     |      |  |  |
| 7         | マスメディアによる情報提供(報道)の仕組み |  |      | 14       | 私たちが身につけるべきメディアリテラシー |      |  |  |
| 成績評価方法    |                       | 定期試験 70%, 課題レポート 20%, 授業への取り組み 10%   |      |          |                      |      |  |  |
| 教科書       |                       | 特に指定はせず、講義毎にプリントを配布する。   |      |          |                      |      |  |  |
| 参考書       |                       | 『メディア論』みすゞ書房(昭和62年7月) M・マクルーハン著<br>『テレビニュースの社会学』世界思想社(平成18年3月)伊藤守著   |      |          |                      |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                       | 週2時間程度の復習を行うこと。<br>試験対策、レポート作成の時間も確保すること。  |      |          |                      |      |  |  |
| 免許・資格     |                       |  |      |          |                      |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                       | (社)共同通信社記者経験者が全ての回を担当  |      |          |                      |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期  | 科目名  | 担当者   | 単位       | 卒業必・選   | 授業形態 |  |  |
|-----------|--|--|-------|----------|---|------|--|--|
| 2         | 前期   | フランス語コミュニケーション   | 小川 紘子 | 1        | 選必  | 演習   |  |  |
| 授業の概要     |  | 国際言語としてのフランス語の修得を目指す科目である。発音やよく使われる表現などに重点を置くとともに、それらを十分に理解できるようフランス語の文の構造も初步から指導する。ビデオやインターネットの教材を用いて、言語の背景にある異文化の理解も図る。生きたフランス語の運用能力を身に付けると同時に、フランスの文化・習慣の理解もできるようにする。 |       |          |   |      |  |  |
| 授業の目標     |  | 視聴覚教材を用いてフランス語の音声と会話表現を学び、練習問題をとおして基礎文法を固め、初步的な会話能力を身につける。フランス語の初步的な文法と語彙を学び、フランス社会の習慣や文化に親しみながら、フランス語による多文化圏でのコミュニケーション能力の涵養を目指す。                                       |       |          |   |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容   |  |       | 各回 100 分 |   |      |  |  |
| 1         | フランス語について、Alphabet、綴り字と発音、主語人称代名詞、強勢形人称代名詞、日常の挨拶         |  |       | 8        | 所有形容詞、疑問形容詞、年齢の聞き方・考え方、副詞、数詞20～100、歴史的人物                    |      |  |  |
| 2         | 名詞の性・数、不定冠詞、数詞1～20、動詞être（～である）、形容詞の性数一致、フランスの地理         |  |       | 9        | vouloir（欲する、～したい）、部分冠詞、中性代名詞 en 、動詞 boire（飲む）、 il y a（～がある） |      |  |  |
| 3         | 形容詞の位置、C'est ～の表現、色彩、動詞avoir（～を持つ）、疑問形、否定形、フランスの教育制度     |  |       | 10       | 代名動詞、時刻の言い方、曜日、宗教について                                       |      |  |  |
| 4         | 第一群規則動詞、第二群規則動詞、定冠詞、好きなものを言う、料理について                      |  |       | 11       | 過去分詞、現在分詞、ジェロディフ、直説法複合過去形とその否定形、過去時の表現、文学について               |      |  |  |
| 5         | 指示形容詞、動詞aller（行く）、近接未来、前置詞àの用法と縮約、現在時の表現、映画について          |  |       | 12       | 直説法半過去、直説法大過去、場所を表す前置詞、子供の唄とシャンソン、                          |      |  |  |
| 6         | 動詞venir（来る）、近接過去、faire（する、作る）、deの用法と縮約、疑問代名詞 que 、Ça の用法 |  |       | 13       | 非人称構文、強調構文、序数、ハツ  |      |  |  |
| 7         | 補語人称代名詞（～を、～に）、動詞 attendre（待つ）、命令形、フランス人の美的センス           |  |       | 14       | 単純未来、比較級・最上級、未来時の表現、日にちと月の言い方、昔と今の日仏交流                      |      |  |  |
| 成績評価方法    |  | 定期試験 50%，課題レポート 30%，授業への取り組み 20%   |       |          |   |      |  |  |
| 教科書       |  | 『Chez Madeleine』駿河台出版社 東海 麻衣子他 共著  |       |          |   |      |  |  |
| 参考書       |  | 適時、資料を配布する。  |       |          |   |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |  | 週に1時間程度の予習・復習と関連テーマの自主的学習を行うこと。  |       |          |   |      |  |  |
| 免許・資格     |  |  |       |          |   |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |  |  |       |          |   |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期  | 科目名   | 担当者  | 単位       | 卒業必・選                                  | 授業形態 |  |  |
|-----------|--|---|------|----------|--|------|--|--|
| 2         | 前期   | 中国語コミュニケーション  | 相川 恵 | 1        | 選必                                     | 演習   |  |  |
| 授業の概要     |  | 国際的な理解と多文化圏でのコミュニケーション能力の涵養を目指し、国際言語としての中国語の修得を目指す科目である。基本的な発音の習得や文法の理解を中心に、日常場面で適切な応答表現ができる中国語の運用能力を身につけ、グローバル化する国際社会に通用する異文化コミュニケーション能力の修得を目的とする。 |      |          |  |      |  |  |
| 授業の目標     |  | 中国語の発音を修得し、基本的なコミュニケーションに必要なフレーズを通して、基礎的文法と語彙を身につける。また、語学だけでなく、中国・台湾・香港などの中華圏の文化事情の知識も身につける。  |      |          |  |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                                 |   |      | 各回 100 分 |  |      |  |  |
| 1         | 中国語とはどういう言語か                               |   |      | 8        | 中間のまとめ                                 |      |  |  |
| 2         | 自己紹介：人称代名詞、動詞「是」、助詞「呢」、副詞「也」、「请」           |   |      | 9        | 何時に行きますか？：時刻の言い方、時を表す語（時間詞）、時間の長さを表わす語 |      |  |  |
| 3         | これは何ですか？：指示代名詞、疑問を表す「吗」、否定を表す「不」、疑問詞「什么」、的 |   |      | 10       | ホテルのフロントで：完了を表す「了」、選択疑問文「～还是…？」        |      |  |  |
| 4         | これいいかがですか？：指示代名詞、形容詞述語文、疑問詞「怎么样」           |   |      | 11       | タクシーに乗る：前置詞「从」、「到」、2つの目的語をもつ動詞「给」      |      |  |  |
| 5         | 買い物：数詞、助詞「吧」、数量を表す語                        |   |      | 12       | 試着と支払い：助動詞「可以」、「能」、「会」、前置詞「在」、動詞の重ね用法  |      |  |  |
| 6         | どこにありますか？：場所指示代名詞、動詞「在」、助動詞「要」「想」          |   |      | 13       | 苦情を訴える：前置詞「给」、「是」の省略、「去・来」+動詞          |      |  |  |
| 7         | 何がありますか？：動詞「有」、「什么」+名詞、助数詞                 |   |      | 14       | 紛失届を出す：「是～的」                           |      |  |  |
| 成績評価方法    |  | 定期試験 60%，小テスト 40%   |      |          |  |      |  |  |
| 教科書       |  | 『最新版』1年生のコミュニケーション中国語』(CD付) 白水社(平成26年2月)塚本慶一監<br>劉頤著  |      |          |  |      |  |  |
| 参考書       |  | 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社(平成8年6月)相原茂、石田知子、<br>戸沼市子(著)  |      |          |  |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |  | 1週間に1時間程度の予習・復習等を行うこと。  |      |          |  |      |  |  |
| 免許・資格     |  |   |      |          |  |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |  | ホテル、法廷、刑務所等にて通訳業務を行った者が全ての回を担当  |      |          |  |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期  | 科目名   | 担当者  | 単位              | 卒業必・選                                   | 授業形態 |  |  |
|-----------|--|---|------|-----------------|---|------|--|--|
| 2         | 前期   | 情報処理演習Ⅱ   | 大山輝光 | 1               | 必修                                      | 演習   |  |  |
| 授業の概要     |  | 情報処理演習Ⅰで学んだ基礎知識を土台に、各種文書の作成方法、表計算ソフトを使用したデータ処理やグラフ作成を学ぶ。また、論文やレポートの作成、プレゼンテーションソフトを利用した発表方法の基礎について学ぶ。パソコンを用いた音楽データの扱いや映像制作の方法を学習することで、マルチメディアを活用した自発的学習を促す教育の方法について考える。 |      |                 |   |      |  |  |
| 授業の目標     |  | パソコンと周辺機器、アプリケーションソフトの実践的な使い方、ビジュアルプログラミング言語について理解する。情報を処理・活用し、文書やグラフ、プレゼンテーション、動画などで表現するための知識と技術、プログラミング教育用教材に対する基礎的な知識を習得することを目標とする。                                  |      |                 |   |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容   |   |      | <u>各回 100 分</u> |   |      |  |  |
| 1         | オリエンテーション(受講に関する注意、課題レポートの作成と提出方法)                     |   |      | 8               | 音楽データの扱い                                |      |  |  |
| 2         | 新聞・ポスター、論文・レポートの作成(段組、ヘッダー・フッター、ページレイアウト、参考文献)         |   |      | 9               | 映像制作の方法                                 |      |  |  |
| 3         | 表計算ソフトを利用したデータ処理、グラフ作成、集計表とグラフの入った資料作成                 |   |      | 10              | マルチメディアを活用した表現の方法①(音声と静止画像・動画像の利用、HTML) |      |  |  |
| 4         | 表計算ソフトにおけるプログラミングの方法①(ワークシートを活用するマクロ)                  |   |      | 11              | マルチメディアを活用した表現の方法②(HTML と JavaScript)   |      |  |  |
| 5         | 表計算ソフトにおけるプログラミングの方法②(処理、条件判断、繰り返し)                    |   |      | 12              | マルチメディアを活用した表現の方法③(Scratch の利用)         |      |  |  |
| 6         | 表計算ソフトにおけるプログラミングの方法③(VBA によるシミュレーション)                 |   |      | 13              | プログラミング教育用教材の理解①(様々なビジュアルプログラミング言語)     |      |  |  |
| 7         | プレゼンテーションソフトを利用した発表の方法(スライドドマスター、配付資料、周辺機器の接続、スライドショー) |   |      | 14              | プログラミング教育用教材の理解②(micro:bit)             |      |  |  |
| 成績評価方法    |  | 毎回の授業中に提示する課題への取り組み状況およびその内容 30%, 課題レポート 30%, 実技試験 30%, 積極的な受講態度 10% を総合して評価する。   |      |                 |   |      |  |  |
| 教科書       |  | 適宜、資料を配布する。<br>『情報リテラシガイド』情報処理ガイド編集委員会 大山輝光 他)  |      |                 |   |      |  |  |
| 参考書       |  | 『Excel環境におけるVisual Basicプログラミング』共立出版(平成25年11月)加藤潔著<br>きのくにICT教育 小学校プログラミング教育 学習指導案集<br>きのくにICT教育 中学校プログラミング教育 学習指導案<br>きのくにICT教育 高等学校<共通教科情報科>プログラミング教育 学習指導案           |      |                 |   |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |  | 事前事後の学習に役立つよう、授業資料を公開する。多目的コンピュータ室の機器を積極的に活用し、通常は週2時間程度、レポート課題の作成等に際しては4時間程度の自主的な学習が必要である。  |      |                 |   |      |  |  |
| 免許・資格     |  | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目   |      |                 |   |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |  |   |      |                 |   |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期  | 科目名  | 担当者   | 単位                                 | 卒業必・選   | 授業形態 |  |  |
|-----------|--|--|-------|------------------------------------|---|------|--|--|
| 2         | 前期   | まちづくりの経済学  | 濱田 智司 | 2                                  | 選必  | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |  | 地域経済を支える“まち”的過去・現在・未来について学ぶ科目である。“まち”的生い立ち、流通革命や産業構造の変化に伴う中心市街地の空洞化といった過去の事象から、現在どのような問題が生じているかを経済・産業構造から概観し、今後期待される“まちづくり”的あり方について、最新の動向「コンパクトシティ」や「リノベーションまちづくり」等の解説を行いながら“まちづくり”と経済との密接な関係を学んでいく。 |       |                                    |   |      |  |  |
| 授業の目標     |  | 新たなまちづくり手法として注目されている「リノベーションまちづくり」について、実際に「ぶらくり丁や周辺のまち」に出てみて、関係者から話を聴きながら、今後のまちづくりの課題を学ぶ。まちづくりへの模擬体験を通し、自らの責任と積極的な社会参画の意識を持つことで、社会人として、まちづくりという地域貢献手法への意識を高めることを目標とする。                               |       |                                    |   |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容   |  |       | 各回 100 分(但し、10~11回、12~13回は連続で200分) |   |      |  |  |
| 1         | 【戦後日本経済の変遷とまちづくりの現状】<br>戦後日本経済の変遷とまちづくりの現状を概観する。           |  |       | 8                                  | 【先進事例との比較:高松市丸亀町と和歌山市】<br>高松市丸亀町商店街と和歌山市ぶらくり丁商店街の中心市街地活性化を比較し、失敗原因を探る。  |      |  |  |
| 2         | 【和歌山経済の変遷①】<br>維新後の和歌山市の状況を概観し、街の成立の歴史的経緯を学ぶ。              |  |       | 9                                  | 【リノベーションまちづくり】<br>新たなまちづくり手法として注目されている「リノベーションまちづくり」とは何かを学ぶ。  |      |  |  |
| 3         | 【和歌山経済の変遷②】<br>和歌山の経済的な特徴を概観し、高齢化率や県内生産性の低下等の現状を学ぶ。        |  |       | 10                                 | 【フィールドワーク:リノベーションまちづくりを学ぶ】<br>ぶらくり丁周辺で実際に実施されている「リノベーションまちづくり」について、実際にぶらくり丁周辺にてフィールドワークを行い、まちの実態を把握する。        |      |  |  |
| 4         | 【国のまちづくり施策①】まちづくりに必要な5つの視点や役割、要素等を学ぶ。                      |  |       | 11                                 | 【フィールドワーク:まちづくりの課題を学ぶ】<br>まちづくりの継続的事業であるポポロスマーケットの運営状況から、現在のまちづくりが抱えている問題点を学び、実際の企画運営等の概要を経験しながら、まちづくりの意義を学ぶ。 |      |  |  |
| 5         | 【県と市のまちづくり施策】<br>街づくり関連法制度等、県や和歌山市が取り組んでいる中心市街地の活性化について学ぶ。 |  |       | 12                                 | 【フィールドワーク:まちづくりの課題を学ぶ】<br>まちづくりの継続的事業であるポポロスマーケットの運営状況から、現在のまちづくりが抱えている問題点を学び、実際の企画運営等の概要を経験しながら、まちづくりの意義を学ぶ。 |      |  |  |
| 6         | 【市民有志や学生の参画】「2030 わかやま構想」について市民有志や学生の参画状況を概観する。            |  |       | 13                                 | 【フィールドワーク:まちづくりの課題を学ぶ】<br>まちづくりの継続的事業であるポポロスマーケットの運営状況から、現在のまちづくりが抱えている問題点を学び、実際の企画運営等の概要を経験しながら、まちづくりの意義を学ぶ。 |      |  |  |
| 7         | 【先進事例研究:湯浅町、長野県飯田市】<br>和歌山県湯浅町、長野県飯田市、のまちづくり事例を学ぶ。         |  |       | 14                                 | 【フィールドワークで学んだテーマの情報共有】<br>個々が実際にフィールドワークで学んだ点を共有化し、まちづくりの課題を改めて考える。   |      |  |  |
| 成績評価方法    |  | 定期試験 70%, 課題レポート 10%, 受講態度・授業への参加度 20%   |       |                                    |   |      |  |  |
| 教科書       |  | 適宜、資料を配布する。  |       |                                    |   |      |  |  |
| 参考書       |  | 『リノベーションまちづくり』学芸出版社刊(2014年9月)清水義次著   |       |                                    |   |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |  | 授業の復習は週1時間程度行うこと。また、「まちづくり」に関するインターネット検索を適宜行い、先進事例等やまちづくりの問題・課題等を自分なりに考えて、授業に参加すること。   |       |                                    |   |      |  |  |
| 免許・資格     |  |  |       |                                    |   |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |  | 和歌山県商工会連合会スーパーバイザーを務めている者がすべての回を担当。  |       |                                    |   |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                       | 科目名  | 担当者  | 単位       | 卒業必・選                         | 授業形態 |  |  |
|-----------|---------------------------|--|------|----------|-------------------------------|------|--|--|
| 2         | 前期                        | 地域の生活文化  | 千森督子 | 2        | 選必                            | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                           | 地域の生活文化が形成される背景について理解し、日本各地の多様な生活文化について概観する。その後、和歌山の伝統的な暮らしにみられる生活文化について学ぶ。和歌山の各地域別(紀北・紀中・紀南)に、気候風土や人々の生業、暮らしの中で育まれ、伝承されてきた生活文化について知る。地域の生活文化への理解を促し、郷土和歌山への愛着心育成を目指す。 |      |          |                               |      |  |  |
| 授業の目標     |                           | 地域の生活文化が理解でき、郷土和歌山への愛着心を育むことができる。  |      |          |                               |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                |  |      | 各回 100 分 |                               |      |  |  |
| 1         | 地域の生活文化とは                 |  |      | 8        | 紀中(1)有田川流域の農家にみる生活文化          |      |  |  |
| 2         | 日本の生活文化の特性                |  |      | 9        | 紀中(2)湯浅の醤油醸造家の生活文化            |      |  |  |
| 3         | 日本各地の特色ある生活文化             |  |      | 10       | 紀中(3)紀中の土豪の生活文化               |      |  |  |
| 4         | 和歌山県の生活文化の特性              |  |      | 11       | 紀南(1)熊野川・北山川流域の川と共に生きる人々の生活文化 |      |  |  |
| 5         | 紀北(1)紀の川流域の農家にみる生活文化      |  |      | 12       | 紀南(2)紀伊山地の農林業家の生活文化           |      |  |  |
| 6         | 紀北(2)傾斜環境に立地する漁師町雜賀崎の生活文化 |  |      | 13       | 紀南(3)懸泉堂の先駆的な洋風化事例にみる生活文化     |      |  |  |
| 7         | 紀北(3)漆器業の町黒江の生活文化         |  |      | 14       | まとめ                           |      |  |  |
| 成績評価方法    |                           | レポート 70%, 定期試験の成績 20%, 授業に取り組む姿勢(意見発表等) 10%  |      |          |                               |      |  |  |
| 教科書       |                           | 教科書は用いず、適宜、資料を提供する。  |      |          |                               |      |  |  |
| 参考書       |                           | (1)『生活文化を考える』光生館、川崎衿子・茂木美智子<br>(2)『神坂次郎の紀伊半島再発見第一～十』株式会社コミュニケーション、神坂次郎   |      |          |                               |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                           | 次回の内容に該当する書籍や資料を学習し、理解を深めておくこと。  |      |          |                               |      |  |  |
| 免許・資格     |                           |  |      |          |                               |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                           |  |      |          |                               |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期   | 科目名  | 担当者   | 単位       | 卒業必・選                               | 授業形態 |  |  |  |  |  |  |  |
|-----------|---|--|-------|----------|-------------------------------------|------|--|--|--|--|--|--|--|
| 2         | 後期  | 文学と郷土  | 平松 正昭 | 2        | 選必                                  | 講義   |  |  |  |  |  |  |  |
| 授業の概要     |   | 日本の文学作品（詩歌、俳諧、小説、説話、神話等）について、和歌山を中心に古代から近現代に至るまで時代順に学習し、それらの作品の舞台となった地域の文化・歴史・風土及び地域環境等について理解を深める科目である。古典分野では、記紀神話・平家物語等の舞台となった和歌山、紀伊万葉の理解と故地探訪、西行、芭蕉等の和歌山での足跡等を学ぶ。近現代分野では、佐藤春夫や有吉佐和子等の和歌山県出身及び縁のある作家を軸に、その作品や業績等を学習し、この授業を通して和歌山の一層の理解、親近感等を培う。 |       |          |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 授業の目標     |   | 高校の学習ではあまり触れられてこなかった和歌山に関する文学作品を中心に学習し、和歌山の文化・歴史・風土及び周辺環境等の一層の理解を深める。授業ではスライドや様々な資料を使うとともに、紀伊万葉をはじめとした文学石碑探訪も行う。本学習を通して和歌山にこれまで以上の親近性、愛着、誇る心等が受講者の中に育つことを目的とする。  |       |          |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容  |  |       | 各回 100 分 |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 1         | オリエンテーション：授業の進め方と全体の概要、評価についての説明                    |  |       | 8        | 松尾芭蕉、与謝蕪村等の近世の俳人と和歌山との関連について学習する    |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 2         | 「古事記」「日本書紀」等に登場する和歌山について学習する                        |  |       | 9        | 和歌山に関する民話、伝統、昔話、縁起物等及び和歌山方言について学習する |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 3         | 万葉集①：万葉集の中に多く詠まれたいわゆる「紀伊万葉」について学習する                 |  |       | 10       | 明治以降の文学における和歌山①：夏目漱石を中心に学習する        |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 4         | 万葉集②「紀伊万葉」故知の探求、和歌浦、有間皇子等について学習する                   |  |       | 11       | 明治以降の文学における和歌山②：佐藤春夫を中心に学習する        |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 5         | 平家物語①：平家物語の概要と物語に描かれた和歌山について学習する                    |  |       | 12       | 昭和の文学における和歌山：有吉佐和子を中心に学習する          |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 6         | 平家物語②：平家物語に登場する人物（平維盛等）や熊野信仰、高野山等関連事項について学習する       |  |       | 13       | 近現代の文学における和歌山：和歌山出身の作家や作品について学習する   |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 7         | 和歌山出身と言われる西行の歌や業績、足跡等について学習する                       |  |       | 14       | 「文学と郷土」のまとめ                         |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 成績評価方法    |   | 定期試験 50%，課題、レポート等 20%，受講態度・授業への参加度 30%   |       |          |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 教科書       | 適宜、資料を配布  |  |       |          |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 参考書       | 授業中に指示  |  |       |          |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 授業外の学習方法  | 授業の事前学習と発表、紀伊万葉故知の石碑に関するレポート作成、授業ノート作成と点検（週 2 時間程度） |  |       |          |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 免許・資格     |   |  |       |          |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当                                       |  |       |          |                                     |      |  |  |  |  |  |  |  |

| 配当年次      | 開講期   | 科目名   | 担当者         | 単位       | 卒業必・選                           | 授業形態 |  |  |
|-----------|---|---|-------------|----------|---------------------------------|------|--|--|
| 2         | 前期  | 地域力再生論  | 千森督子<br>江口怜 | 2        | 必修                              | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |   | 和歌山が抱える地域課題について理解を深め、課題解決のための力を身につける授業である。最初に、近年注目されている「持続可能性 (sustainability)」や「包摂 (inclusion)」の概念を理解し、和歌山県の先進的な取り組みを学ぶ。次に、地域課題の具体的な事例を行政関係者・地域住民・NPO 関係者等との対話やグループごとのインタビュー調査を通して協働的・実践的に学習する。最後に、学んだ内容を報告し合い、地域社会の一員として出来ることを「自分事」として考察する。 |             |          |                                 |      |  |  |
| 授業の目標     |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県が抱える様々な地域課題を理解し、今後求められる持続可能で包摂的な地域社会のあり方について考える。</li> <li>行政機関の担当者や地域住民、NPO 関係者等の話を聞き、コミュニケーションの中から課題を発見し、解決方法を考える力を身につける。</li> </ul>  |             |          |                                 |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                                  |   |             | 各回 100 分 |                                 |      |  |  |
| 1         | オリエンテーション                                   |   |             | 8        | 地域課題の解決方法を考える① (ワークショップ)        |      |  |  |
| 2         | 持続可能で包摂的な地域社会に向けた課題                         |   |             | 9        | 地域課題の解決方法を考える② (インタビュー調査のガイダンス) |      |  |  |
| 3         | 和歌山県の地域課題を学ぶ                                |   |             | 10       | グループごとにインタビュー調査の準備 (質問項目等の検討)   |      |  |  |
| 4         | 地域課題解決の先進事例に学ぶ① (過疎高齢化が進む和歌山県の地域活性化事例)      |   |             | 11       | グループごとにインタビュー調査の実施              |      |  |  |
| 5         | 地域課題解決の先進事例に学ぶ② (空き家問題解決にもつながる和歌山県の古民家再生事例) |   |             | 12       | インタビュー調査を振り返る (ワークショップ)         |      |  |  |
| 6         | 和歌山県・和歌山市の行政担当者との対話 (グループディスカッション)          |   |             | 13       | グループごとに報告会の準備                   |      |  |  |
| 7         | 地域住民・NPO との対話 (グループディスカッション)                |   |             | 14       | 学習体験報告会・まとめ                     |      |  |  |
| 成績評価方法    |   | 小レポート 30%, 成果発表 40%, 最終レポート 30%   |             |          |                                 |      |  |  |
| 教科書       |   | なし  |             |          |                                 |      |  |  |
| 参考書       |   | 『地域再生入門』ちくま新書(平成27年11月)山浦晴男   |             |          |                                 |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |   | インタビューや報告会のための準備等を行う。   |             |          |                                 |      |  |  |
| 免許・資格     |   |   |             |          |                                 |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |   |   |             |          |                                 |      |  |  |

| 配当年次  | 開講期                             | 科目名   | 担当者                           | 単位       | 卒業必・選                      | 授業形態 |
|-------|---------------------------------|---|-------------------------------|----------|----------------------------|------|
| 2     | 通年                              | 地域連携フィールドゼミナール  | 千森督子 森崎陽子<br>森下順子 小田真弓<br>江口怜 | 4        | 必修                         | 演習   |
| 授業の概要 |                                 | フィールド学習により地域特性への理解を深めながら、内在する地域課題を解決する意欲と課題解決力の向上を図る科目である。担当教員のもと、10～15人程度の少人数グループに分かれて、ゼミ形式で学習を深める。和歌山市の中心市街地でありながら空洞化に悩む「ぶらくり丁」界隈や、歴史を生かしたまちづくりを積極的に行っている「湯浅町」等をフィールドに、和歌山市や湯浅町と連携して、地域の特性や町の仕組み、抱える課題を調査・探し、町の整備、活性化や歴史的風致維持向上にむけた計画、提案を考える。 |                               |          |                            |      |
| 授業の目標 |                                 | フィールド(実社会の現場)での実践教育により地域社会の現状と特性への理解を深めながら、内在する地域課題を解決する意欲と課題解決力育成を目標とする。   |                               |          |                            |      |
| 回     | 授業のテーマ及び内容                      |   |                               | 各回 200 分 |                            |      |
| 1     | オリエンテーション：科目の目標、学習内容、評価方法について理解 |   |                               | 8        | ゼミ学習：フィールド学習準備             |      |
| 2     | ゼミ選択：フィールド学習の進め方を理解し、所属ゼミ決定     |   |                               | 9        | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ① |      |
| 3     | ゼミ学習：フィールド学習地域の仕組みについての学習       |   |                               | 10       | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ② |      |
| 4     | ゼミ学習：フィールド学習地域の特性についての学習        |   |                               | 11       | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ③ |      |
| 5     | ゼミ学習：フィールド学習地域が抱える課題検討          |   |                               | 12       | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ④ |      |
| 6     | ゼミ学習：フィールド学習内容の検討               |   |                               | 13       | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ⑤ |      |
| 7     | ゼミ学習：フィールド学習内容の整理               |   |                               | 14       | 前期ゼミの振り返り・学習成果の確認          |      |

| 配当年次      | 開講期                        | 科目名   | 担当者                           | 単位       | 卒業必・選              | 授業形態 |  |  |
|-----------|----------------------------|---|-------------------------------|----------|--------------------|------|--|--|
| 2         | 通年                         | 地域連携フィールドゼミナール  | 千森督子 森崎陽子<br>森下順子 小田真弓<br>江口怜 | 4        | 必修                 | 演習   |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                 |   |                               | 各回 200 分 |                    |      |  |  |
| 15        | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ⑥ |   |                               | 22       | ゼミ学習：研究成果の整理       |      |  |  |
| 16        | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ⑦ |   |                               | 23       | ゼミ学習：研究成果の考察       |      |  |  |
| 17        | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ⑧ |   |                               | 24       | ゼミ学習：研究成果のまとめ      |      |  |  |
| 18        | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ⑨ |   |                               | 25       | ゼミ学習：提案整理          |      |  |  |
| 19        | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ⑩ |   |                               | 26       | 研究発表会：発表準備         |      |  |  |
| 20        | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ⑪ |   |                               | 27       | 研究発表会：研究成果、提案発表    |      |  |  |
| 21        | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む ⑫ |   |                               | 28       | 研究発表会：研究成果、提案の相互評価 |      |  |  |
| 成績評価方法    |                            | ゼミ学習・フィールド学習への取り組み 40%, 研究発表会 60%   |                               |          |                    |      |  |  |
| 教科書       |                            | 適宜、資料を配布する。   |                               |          |                    |      |  |  |
| 参考書       |                            | 『地域に学ぶ、学生が変わる-大学と市民でつくる持続可能な社会』東京学芸大学出版会(平成 14 年 4 月)地域と連携する大学教育研究会編<br>『地域と大学の共創まちづくり』学芸出版社(平成 20 年 11 月)小林英嗣、地域・大学連携まちづくり研究会他 |                               |          |                    |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                            | フィールド学習地域に関する文献調査、研究発表会の準備・まとめ等   |                               |          |                    |      |  |  |
| 免許・資格     |                            |   |                               |          |                    |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                            |   |                               |          |                    |      |  |  |

# **専門教育科目**



| 配当年次      | 開講期                           | 科目名  | 担当者   | 単位       | 卒業必・選                       | 授業形態 |  |  |
|-----------|-------------------------------|--|-------|----------|-----------------------------|------|--|--|
| 2         | 前期                            | 社会福祉   | 太田 作也 | 2        | 必修                          | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                               | 保育の基礎理論として、社会福祉の理念と仕組みについての理解を深める科目である。社会福祉の意義と歴史的変遷、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、社会福祉の制度や実施体系等について学ぶ。また、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて学ぶと共に、社会福祉の動向と課題について理解を深めることを目指す。  |       |          |                             |      |  |  |
| 授業の目標     |                               | この世に生をうけてから亡くなるまでの生涯にわたり、私たちの生活と社会福祉は密接な関わりを持っている。具体的なトピックを取り上げながら、福祉専門職としての保育士に求められる、社会福祉の歴史・理念・制度・政策などについての基礎知識を学ぶ。<br>・社会福祉の歴史と現状、制度・政策に関する基礎知識を身につける。<br>・自らが社会福祉の当事者（専門職、利用者、地域住民）であるとの認識を持つ。<br>・社会福祉に関する知識を保育現場で活かすことへの意欲を持つ。 |       |          |                             |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                    |  |       | 各回 100 分 |                             |      |  |  |
| 1         | オリエンテーション、「社会福祉」の基礎的理解、理念、歴史  |  |       | 8        | 社会福祉サービスの供給方法（社会福祉法人の取組）    |      |  |  |
| 2         | 社会福祉ニーズとは何か、その把握方法            |  |       | 9        | 地域福祉の概観                     |      |  |  |
| 3         | 社会福祉サービスの分野（児童、障害）            |  |       | 10       | 地域福祉の推進組織と担い手（民生委員、ボランティア）  |      |  |  |
| 4         | 社会福祉サービスの分野（高齢、母子・父子・寡婦、生活保護） |  |       | 11       | 社会福祉協議会の変遷（声なき声に寄り添う）と地域福祉  |      |  |  |
| 5         | 社会福祉サービスの分野（生活困窮）             |  |       | 12       | 社会福祉協議会の変遷（災害ボランティア活動）と地域福祉 |      |  |  |
| 6         | 社会福祉サービスの供給方法（施設福祉と在宅福祉）      |  |       | 13       | 社会福祉の専門職とソーシャルワーク実践         |      |  |  |
| 7         | 社会福祉サービスの供給方法（ホームヘルパー）        |  |       | 14       | 社会福祉の法、関連諸制度、社会福祉の動向、まとめ    |      |  |  |
| 成績評価方法    |                               | 定期試験 60%, 課題・小テスト等 20%, 受講態度・授業への参加度 20%   |       |          |                             |      |  |  |
| 教科書       |                               | 各回の授業で資料を配布する。   |       |          |                             |      |  |  |
| 参考書       |                               | 『六訂版 社会福祉概論』中央法規出版（2017年4月）西村昇・日開野博・山下正國編著   |       |          |                             |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                               | 授業の復習及び小テスト対策に向けた学習を週2時間程度行う。<br>試験対策、課題作成の時間も確保する。  |       |          |                             |      |  |  |
| 免許・資格     |                               | 保育士資格必修科目  |       |          |                             |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                               | 社会福祉協議会での実務経験者が全ての回を担当   |       |          |                             |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                     | 科目名  | 担当者      | 単位                   | 卒業必・選 | 授業形態 |  |  |  |  |  |
|-----------|-------------------------|--|----------|----------------------|-------|------|--|--|--|--|--|
| 2         | 後期                      | 社会的養護  | 桑原義登     | 2                    | 必修    | 講義   |  |  |  |  |  |
| 授業の概要     |                         | 保育者として必要な社会的養護の理念と制度の基礎的理解を目指す科目である。現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解するとともに、社会的養護の制度や実施体系、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援について学び、社会的養護の現状と課題について理解を深める。 |          |                      |       |      |  |  |  |  |  |
| 授業の目標     |                         | 現代の社会情勢の中での社会的養護の必要性や意義を理解したうえで、保育等の現場で社会的養護が必要な子どもを発見して関係機関と連携しながら対応していく知識や技術を身につける。  |          |                      |       |      |  |  |  |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容              |  | 各回 100 分 |                      |       |      |  |  |  |  |  |
| 1         | 最近の社会情勢と社会的養護の必要性       |  | 8        | 社会的養護の制度と実施体系        |       |      |  |  |  |  |  |
| 2         | 社会的養護の意義と変遷             |  | 9        | 施設養護の特徴・役割・課題        |       |      |  |  |  |  |  |
| 3         | 児童虐待の実態から見る現状と課題        |  | 10       | 家庭的養護(里親制度)の特徴・役割・課題 |       |      |  |  |  |  |  |
| 4         | 児童養護施設等の課題と今後の展望        |  | 11       | 児童虐待防止の制度と被虐待児童への支援  |       |      |  |  |  |  |  |
| 5         | 家庭養護と社会的養護の関係           |  | 12       | 社会的養護事例の発達に沿った支援を考える |       |      |  |  |  |  |  |
| 6         | 社会的養護の日常生活支援と自己実現に向けた支援 |  | 13       | 地域と連携した支援のあり方        |       |      |  |  |  |  |  |
| 7         | 社会的養護の治療的支援と自立支援        |  | 14       | 児童虐待模擬事例のグループワーク     |       |      |  |  |  |  |  |
| 成績評価方法    |                         | 定期試験 70%, 授業の最後に行う小レポート 20%, 授業への取り組み 10%  |          |                      |       |      |  |  |  |  |  |
| 教科書       |                         | 『児童の福祉を支える社会的養護 I』 萌文書林 吉田眞理   |          |                      |       |      |  |  |  |  |  |
| 参考書       |                         | 『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』 萌文書林 原田旬哉他   |          |                      |       |      |  |  |  |  |  |
| 授業外の学習方法  |                         | 実習等で支援を必要とする子どもに注意して問題意識を持って授業に参加してください。(週2時間程度)<br>試験対策の時間も確保すること。  |          |                      |       |      |  |  |  |  |  |
| 免許・資格     |                         | 保育士資格必修科目  |          |                      |       |      |  |  |  |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                         | 児童相談所心理専門職と臨床心理士として児童福祉施設等への支援を行っている経験者が全ての回を担当  |          |                      |       |      |  |  |  |  |  |

| 配当年次      | 開講期                     | 科目名  | 担当者          | 単位       | 卒業必・選                   | 授業形態 |  |  |
|-----------|-------------------------|--|--------------|----------|-------------------------|------|--|--|
| 2         | 前期                      | 国語(書写を含む)  | 小林康宏<br>鈴木晴久 | 2        | 選必                      | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                         | 小学校学習指導要領(国語科)の学習指導の背景となる国語学の専門的理解を深める科目である。指導要領に示された「読み・書き・聞く・話す」の指導内容を探究することを中心に、言語活動の特質やあり様、それを支える言語そのものの系統性や法則性、そして国語科教育の特質について学ぶ。 |              |          |                         |      |  |  |
| 授業の目標     |                         | 言語そのものの系統性や法則性の理解を深めつつ、小学校学習指導要領(国語科)の構造・各領域の内容、言語活動の特徴を理解し、指導の基本を修得すると共に、書写指導に関する基礎的知識・技能の実践による習得を目指す。                                |              |          |                         |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容              |  |              | 各回 100 分 |                         |      |  |  |
| 1         | 国語科教育の全体像:指導内容の概観をする。   |  |              | 8        | 「言葉の特徴や使い方」の特長:指導内容を知る。 |      |  |  |
| 2         | 「話すこと・聞くこと」の特長:指導内容を知る。 |  |              | 9        | 「言葉の特長や使い方」の指導:言語活動を行う。 |      |  |  |
| 3         | 「話すこと・聞くこと」の指導:言語活動を行う。 |  |              | 10       | 「伝統的な言語文化」の特長:指導内容を知る。  |      |  |  |
| 4         | 「書くこと」の特長:指導内容と系統性を知る。  |  |              | 11       | 「伝統的な言語文化」の指導;言語活動を行う。  |      |  |  |
| 5         | 「書くこと」の指導:教材を使い言語活動を行う。 |  |              | 12       | 「書写」の特長:指導内容を系統的に知る。    |      |  |  |
| 6         | 「読むこと」の特長:指導内容と系統性を知る。  |  |              | 13       | 「書写」の指導:授業の基本的な方法を知る。   |      |  |  |
| 7         | 「読むこと」の指導:教材を使い言語活動を行う。 |  |              | 14       | 「情報の扱い方」の特長:指導内容を知る。    |      |  |  |
| 成績評価方法    |                         | 定期試験の成績 30%, 毎回の授業後に提出する小レポート 30%, 模擬授業 40%  |              |          |                         |      |  |  |
| 教科書       |                         | 『言葉による見方・考え方』を育てる! 子どもに確かな力がつく授業づくり 7の原則×発問&指示』明治図書 小林康宏<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省                              |              |          |                         |      |  |  |
| 参考書       |                         | 適宜紹介する。  |              |          |                         |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                         | 1週間に2時間程度の予習・復習等を行うこと。   |              |          |                         |      |  |  |
| 免許・資格     |                         | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目  |              |          |                         |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                         | 教員経験者が全ての回を担当(1~11回、14回:小林康宏、12,13回:鈴木晴久)  |              |          |                         |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                       | 科目名   | 担当者  | 単位       | 卒業必・選                                | 授業形態 |  |  |
|-----------|---------------------------|---|------|----------|--------------------------------------|------|--|--|
| 2         | 後期                        | 算数  | 山本紀代 | 2        | 選必                                   | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                           | 小学校学習指導要領(算数科)の学習指導に必要な数学の専門的理解を深める科目である。指導要領に示された学習内容「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の内容を数学的観点から深く掘り下げ、講義や演習を通して小学校教員に必要な数理的な考え方を身に付けることを目的とする。 |      |          |                                      |      |  |  |
| 授業の目標     |                           | 算数の指導について自ら考える力を養うための算数の教科内容の深い理解を目標とする。  |      |          |                                      |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                |   |      | 各回 100 分 |                                      |      |  |  |
| 1         | 学習指導要領と「算数」の教科内容          |   |      | 8        | 「測定」領域に関連する話題（量の概念と比較）               |      |  |  |
| 2         | 「数と計算」領域に関連する話題（整数・小数・分数） |   |      | 9        | 「測定」領域に関連する話題（量の単位と測定）               |      |  |  |
| 3         | 「数と計算」領域に関連する話題（式と計算）     |   |      | 10       | 「変化と関係」領域に関連する話題（単位量当たりの大きさ）         |      |  |  |
| 4         | 「数と計算」領域に関連する話題（四則演算）     |   |      | 11       | 「変化と関係」領域に関連する話題（割合・比）               |      |  |  |
| 5         | 「数と計算」領域に関連する話題（概数と見積り）   |   |      | 12       | 「変化と関係」領域に関連する話題（比例・反比例）             |      |  |  |
| 6         | 「図形」領域に関連する話題（平面図形・立体図形）  |   |      | 13       | 「データの活用」領域に関連する話題（測定値の平均）            |      |  |  |
| 7         | 「図形」領域に関連する話題（角・面積・体積）    |   |      | 14       | 「データの活用」領域に関連する話題（表・グラフ）・プログラミングの考え方 |      |  |  |
| 成績評価方法    |                           | 定期試験 40%, 課題レポート 30%, 授業への取り組み 30%  |      |          |                                      |      |  |  |
| 教科書       |                           | 適宜、資料を配布する  |      |          |                                      |      |  |  |
| 参考書       |                           | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版(2018年2月)文部科学省<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』日本文教出版(2018年2月)文部科学省   |      |          |                                      |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                           | 授業計画に沿って、準備学習と復習を行う。授業内容に関する調査・考察を含め週1時間程度の自主学習。  |      |          |                                      |      |  |  |
| 免許・資格     |                           | 小学校教諭免許必修科目   |      |          |                                      |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                           | 教員経験者が全ての回を担当する   |      |          |                                      |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                    | 科目名  | 担当者  | 単位       | 卒業必・選               | 授業形態 |  |  |
|-----------|------------------------|--|------|----------|---------------------|------|--|--|
| 2         | 前期                     | 理科   | 秋吉博之 | 2        | 選必                  | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                        | 小学校理科では、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、「物質・エネルギー」「生命・地球」の各領域について理解を深め、観察・実験などの技能を修得する。 |      |          |                     |      |  |  |
| 授業の目標     |                        | 小学校理科の「物質」、「エネルギー」、「生命」、「地球」の各領域における学習内容について、観察・実験を通して、理科の授業実践のための知識と技能を身につける。   |      |          |                     |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容             |  |      | 各回 100 分 |                     |      |  |  |
| 1         | オリエンテーション・理科室での安全指導    |  |      | 8        | 小学校理科 3、4 年・物質領域    |      |  |  |
| 2         | 小学校学習指導要領(理科)          |  |      | 9        | 小学校理科 5、6 年・物質領域    |      |  |  |
| 3         | 野外活動の実際                |  |      | 10       | 小学校理科 3、4 年・エネルギー領域 |      |  |  |
| 4         | 実験器具の使い方(1)生命・地球領域     |  |      | 11       | 小学校理科 5、6 年・エネルギー領域 |      |  |  |
| 5         | 実験器具の使い方(2) 物質・エネルギー領域 |  |      | 12       | 小学校理科 3、4 年・地球領域    |      |  |  |
| 6         | 小学校理科 3、4 年・生命領域       |  |      | 13       | 小学校理科 5、6 年・地球領域    |      |  |  |
| 7         | 小学校理科 5、6 年・生命領域       |  |      | 14       | 理科のこれからの課題(まとめ)     |      |  |  |
| 成績評価方法    |                        | 定期試験 50%, 毎回の課題への取り組み 20%, 観察・実験への取り組み 20%, 授業への取り組み 10%   |      |          |                     |      |  |  |
| 教科書       |                        | 『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省<br>『理科教育法 第3版』大学教育出版(2018年10月)秋吉博之編著<br>『解くコツがわかる 小学校教員採用試験 理科問題集 改訂2版』オーム社(2018年4月)松原静朗・岩間淳子共編著                           |      |          |                     |      |  |  |
| 参考書       |                        | 小学校理科検定教科書(東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、新興出版社啓林館)  |      |          |                     |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                        | 各回に授業で指示する教科書(問題集)の箇所を事前に解き、課題を確認しておくこと。(毎回60分程度)<br>各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回30分程度)   |      |          |                     |      |  |  |
| 免許・資格     |                        | 小学校教諭免許必修科目  |      |          |                     |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                        | 教員経験者が全ての回を担当  |      |          |                     |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                                       | 科目名  | 担当者   | 単位       | 卒業必・選                            | 授業形態 |  |  |
|-----------|---|--|-------|----------|----------------------------------|------|--|--|
| 2         | 後期  | 社会   | 西端 幸信 | 2        | 選必                               | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |   | 社会科の成立と変遷、目的を踏まえ、小学校学習指導要領に示される小学校第3学年から第6学年の目標および内容構成について概説する。その上で、社会科の方法原理、評価、授業作りの理論や学習指導の方法等を実践事例を通じて学び、各学年に配当されて学習課題を見極め、社会科指導の力量を培うとともに、確かな授業観、学習指導観を形成する。 |       |          |                                  |      |  |  |
| 授業の目標     |   | 1.社会科の目的、目標、内容構成を理解する。<br>2.社会科の共同内容の詳細を理解し、学習指導に必要な資質を養う。   |       |          |                                  |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                                |  |       | 各回 100 分 |                                  |      |  |  |
| 1         | 社会諸科学の成果を背景とした社会科の楽しさを授業実践から考える           |  |       | 8        | 社会科の授業作りの理論                      |      |  |  |
| 2         | 社会科の成立と変遷1（戦後から昭和52・53年告示まで）              |  |       | 9        | 社会科の学習指導の方法                      |      |  |  |
| 3         | 社会科の成立と変遷2（平成元年告示から現在）                    |  |       | 10       | 評価の高い実践に学ぶ                       |      |  |  |
| 4         | 新小学校学習指導要領における社会科の目的・目標と内容構成原理（第3学年・第4学年） |  |       | 11       | 現行の小学校社会の実践に学ぶ1（第3学年・第4学年の授業例より） |      |  |  |
| 5         | 新小学校学習指導要領における社会科の目的・目標と内容構成原理（第5学年・第6学年） |  |       | 12       | 現行の小学校社会の実践に学ぶ2（第5学年の授業例より）      |      |  |  |
| 6         | 社会科の方法原理                                  |  |       | 13       | 現行の小学校社会の実践に学ぶ3（第6学年の授業例より）      |      |  |  |
| 7         | 社会科の学力と評価の理論                              |  |       | 14       | 現代的課題を探る                         |      |  |  |
| 成績評価方法    |   | 定期試験 50%, 授業後のレポート等提出物 50%   |       |          |                                  |      |  |  |
| 教科書       |   | 適宜、資料を配布する。  |       |          |                                  |      |  |  |
| 参考書       |   | 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（2018年2月）文部科学省<br>『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』日本文教出版（2018年2月）文部科学省   |       |          |                                  |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |   | 週2時間程度の復習及びレポート作成を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。   |       |          |                                  |      |  |  |
| 免許・資格     |   | 小学校教諭免許必修科目  |       |          |                                  |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |   | 教員経験のある担当者がすべての回を担当する。   |       |          |                                  |      |  |  |

| 配当年次  | 開講期                                   | 科目名   | 担当者           | 単位       | 卒業必・選                          | 授業形態 |
|-------|---------------------------------------|---|---------------|----------|--------------------------------|------|
| 2     | 通年                                    | 器楽  | 桐山由香<br>溝口希久生 | 2        | 選必                             | 演習   |
| 授業の概要 |                                       | 初等音楽科教育の現場で様々な様式の楽曲で用いられる楽器の音色や奏法、合奏の特性を理解し、演奏の基本を習得することを目指す科目である。器楽作品の指導方法の研究を念頭に置き初等教育の現場で採り上げられる様々なスタイルの楽曲を、実際に音を出しながら、指導すべき問題を探り上げる形で授業を進める。  |               |          |                                |      |
| 授業の目標 |                                       | <p>①打楽器、リコーダー、和楽器などの楽器の演奏や合奏等の演習を通して、それぞれの楽器の音色や奏法、アンサンブルや合奏の特性を理解し、楽器演奏の基本を習得する。さらに、多様な音楽に触れるようにし、様々な楽器の演奏を通して、楽器の音色や奏法、合奏の特性を理解した指導のあり方を学ぶ。(桐山由香)</p> <p>②ピアノ演奏を中心に、自身の器楽演奏能力向上を目指す。与えられたメロディーを、どのような方向性を持って演奏すれば、音楽的であるか瞬時に判断できるようになるとともに、鍵盤楽器の特性を把握し、適切な指導ができるようになることを目標とする。(溝口希久生)</p> |               |          |                                |      |
| 回     | 授業のテーマ及び内容                            |   |               | 各回 100 分 |                                |      |
| 1     | オリエンテーション、授業概要の説明                     |   |               | 8        | パーカッショナリズムアンサンブル(1)基礎リズム       |      |
| 2     | ピアノ演奏:ハ長調の和音伴奏(ハ長調の主要三和音・和音記号・コードネーム) |   |               | 9        | パーカッショナリズムアンサンブル(2)身体を使ったリズム表現 |      |
| 3     | ピアノ演奏:ハ長調の和音伴奏(ハ長調の属七和音)              |   |               | 10       | パーカッショナリズムアンサンブル(3)ボディーパーカッション |      |
| 4     | ピアノ演奏:ニ長調の和音伴奏(ニ長調の和音)                |   |               | 11       | 器楽合奏(1)楽器の使い方:マリンバ等打楽器         |      |
| 5     | ピアノ演奏:ヘ長調の和音伴奏(ヘ長調の和音)                |   |               | 12       | 器楽合奏(2)楽器の使い方:鍵盤ハーモニカ(桐山由香)    |      |
| 6     | ピアノ演奏:イ長調の和音伴奏(イ長調の和音)                |   |               | 13       | 器楽合奏(3)楽器の使い方:その他の楽器の練習        |      |
| 7     | ピアノ演奏:イ長調の和音伴奏(ニ、ヘ、イ長調の和音)            |   |               | 14       | 前期まとめと発表                       |      |

| 配当年次      | 開講期   | 科目名                                  | 担当者                          | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |  |  |  |  |  |
|-----------|---|--------------------------------------|------------------------------|----|-------|------|--|--|--|--|--|
| 2         | 通年  | 器楽                                   | 桐山由香<br>溝口希久生                | 2  | 選必    | 演習   |  |  |  |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容  |                                      | 各回 100 分                     |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 15        | オリエンテーション、授業概要の説明   | 22                                   | リコーダーアンサンブル(1)ソプラノリコーダーの基礎奏法 |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 16        | ピアノ演奏:ハ長調からニ長調への移調した和音伴奏  | 23                                   | リコーダーアンサンブル(2)アルトリコーダーの基礎奏法  |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 17        | ピアノ演奏:ハ長調からヘ、イ長調への移調した和音伴奏  | 24                                   | リコーダーアンサンブル(3)リコーダーでのアンサンブル  |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 18        | ピアノ演奏:いろいろな伴奏型(ハ、ニ長調)   | 25                                   | 器楽合奏(1)小編成の合奏曲の演奏導入          |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 19        | ピアノ演奏:いろいろな伴奏型(ヘ、イ長調) (溝口希久生)   | 26                                   | 器楽合奏(2)合奏演奏導入                |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 20        | ピアノ演奏:短調の曲の伴奏づけ(イ短調の和音伴奏)   | 27                                   | 器楽合奏(3)合奏                    |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 21        | ピアノ演奏:短調の曲の伴奏づけ(イ短調のいろいろな和音伴奏)  | 28                                   | 発表とまとめ                       |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 成績評価方法    |   | 定期試験の成績 50%, 器楽演奏の技能 30%, 課題テスト等 20% |                              |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 教科書       | 『楽譜 たのしいポケット歌集 新版』教育研究社<br>『こどものうた 100』チャイルド本社(1982年4月)小林 美実  |                                      |                              |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 参考書       | 必要に応じて、授業中に適宜紹介、資料配布をする。<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省<br>『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 音楽編』東洋館出版社(2018 年 2 月)文部科学省<br>『幼稚園教育要領解説<平成 30 年 3 月>』フレーベル館(2018 年 3 月)文部科学省<br>『保育所保育指針<平成 29 年告示>』フレーベル館(2017 年 4 月)厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館(2017 年 4 月)内閣府・文部科学省・厚生労働省 |                                      |                              |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 授業外の学習方法  | その回に行われた内容を十分復習して練習し、次回の内容を予習しておくこと(週 3 時間程度)   |                                      |                              |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 免許・資格     | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目   |                                      |                              |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当   |                                      |                              |    |       |      |  |  |  |  |  |

| 配当年次      | 開講期   | 科目名   | 担当者   | 単位       | 卒業必・選                   | 授業形態 |  |  |
|-----------|---|---|-------|----------|-------------------------|------|--|--|
| 2         | 前期  | 体育  | 大平 誠也 | 1        | 選必                      | 演習   |  |  |
| 授業の概要     |   | 小学校学習指導要領(体育科)の学習指導に必要な身体教育学の専門的技能を高める科目である。子どもの運動発達や体育授業に関する意識について学習した上で、小学校体育の運動領域のうち、主として陸上運動系、ボール運動系、水泳系、表現運動系を中心に体育実技を行い、その技能を高めることを目標とする。   |       |          |                         |      |  |  |
| 授業の目標     |   | 自らの現状を認識し、小学校学習指導要領(体育科)の学習指導に必要な身体教育学の専門的技能と知識を身につける。  |       |          |                         |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容  |   |       | 各回 100 分 |                         |      |  |  |
| 1         | オリエンテーション<br>1 体つくり運動系：今の自分を知ろう 簡易体力テスト(反復横跳び、上体起こし、垂直跳びなど) |   |       | 8        | ボール運動系：バスケットボール（ゴール型）   |      |  |  |
| 2         | 体力を高める運動・多様な動きを高める運動  |   |       | 9        | 表現運動系：リズムダンス・表現遊び・リズム遊び |      |  |  |
| 3         | 陸上運動系：短距離走・リレー  |   |       | 10       | 表現運動系：フォークダンス           |      |  |  |
| 4         | 陸上運動系：ハーフ走  |   |       | 11       | 器械運動系：跳び箱・マット運動         |      |  |  |
| 5         | 陸上運動系：走り幅跳び   |   |       | 12       | 器械運動系：鉄棒運動              |      |  |  |
| 6         | ボール運動系：ソフトバレーボール（ネット型）                                      |   |       | 13       | 水泳系：水遊び、浮く・泳ぐ運動         |      |  |  |
| 7         | ボール運動系：キックベース（ベースボール型）                                      |   |       | 14       | 水泳系：水泳                  |      |  |  |
| 成績評価方法    |   | 授業への参加態度(姿勢、発言、振り返りカード) 60%, 実技に関するレポート 40%   |       |          |                         |      |  |  |
| 教科書       |   | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省  |       |          |                         |      |  |  |
| 参考書       |   | 『やってみる ひろげる ふかめる』光文書院(平成21年10月)細江文利他<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省<br>『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月)文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月)内閣府・文部科学省・厚生労働省 |       |          |                         |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |   | 各実技における指導上の留意点について、教科書を参考にしながら事前にまとめておく。実技を通して試みた指導事項について振り返りを行い、まとめておく。(週1時間程度)  |       |          |                         |      |  |  |
| 免許・資格     |   | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目   |       |          |                         |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |   | 小学校教員としての経験を生かし、各運動領域における体育指導にかかる指導事項を安心・安全をキーワードに体験を通して育成する。   |       |          |                         |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期   | 科目名  | 担当者                  | 単位       | 卒業必・選  | 授業形態 |  |  |
|-----------|---|--|----------------------|----------|--|------|--|--|
| 2         | 後期  | 家庭   | 千森督子<br>中根真富<br>嘉本知子 | 1        | 選必   | 演習   |  |  |
| 授業の概要     |   | 家庭科の各領域(「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」)に関する内容を専門的観点から掘り下げるにより、生活学的知識と必要な技能等を習得しながら、教材に関する基本的な指導内容について学ぶ。   |                      |          |  |      |  |  |
| 授業の目標     |   | 生活の営みに関わる見方・考え方を育成することができ、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力が養われ、小学校家庭科の授業を担当できる基礎的力量形成を図ることができる。  |                      |          |  |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容  |  |                      | 各回 100 分 |  |      |  |  |
| 1         | 家庭生活と家族 (1) 家族が協力して家庭生活を営むための仕事とその役割分担について (中根真富) |  |                      | 8        | 生活を豊かにするための布を用いた製作 (1) 基礎的な知識と技能について (嘉本知子)  |      |  |  |
| 2         | 家庭生活と家族 (2) 家族の一員としてだけでなく集団や地域の一員としての役割について(中根真富) |  |                      | 9        | 生活を豊かにするための布を用いた製作 (2) 製作計画と製作の工夫について (嘉本知子) |      |  |  |
| 3         | 日常の食事と調理の基礎 (1) 食事の役割について (中根真富)                  |  |                      | 10       | 快適な住まい方 (1) 住まいの主な働きと構成について (千森督子)           |      |  |  |
| 4         | 日常の食事と調理の基礎 (2) 調理の基礎技能について (中根真富)                |  |                      | 11       | 快適な住まい方 (2) 季節の変化に合わせた、自然に配慮した住まい方について(千森督子) |      |  |  |
| 5         | 日常の食事と調理の基礎 (3) 実践的・体験的な学習を目指した調理実習について (中根真富)    |  |                      | 12       | 快適な住まい方 (3) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方について (千森督子)       |      |  |  |
| 6         | 日常の食事と調理の基礎 (4) 栄養バランスを考えた献立について (中根真富)           |  |                      | 13       | 金銭教育の教材の開発について (嘉本知子)                        |      |  |  |
| 7         | 日常着の快適な着方と手入れの必要性について—科学的な根拠からの検証— (嘉本知子)         |  |                      | 14       | 環境に配慮した物の使い方の事例研究について (嘉本知子)                 |      |  |  |
| 成績評価方法    |   | 定期試験の成績 70%, 課題に関するレポートや作品 20%, 授業への貢献(意見発表等) 10%  |                      |          |  |      |  |  |
| 教科書       |   | 『小学校家庭科の授業をつくる 理論・実践の基礎知識』学術図書出版社(2017年5月)<br>中西雪夫、小林久美、貴志倫子   |                      |          |  |      |  |  |
| 参考書       |   | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』東洋館出版社 (2018年2月)<br>『早わかり&実践 新学習指導要領解説 小学校家庭 理解への近道』開隆堂出版株式会社(2017年10月)長澤由喜子、木村美智子、鈴木真由子、永田晴子、中村恵子 |                      |          |  |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |   | 次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと。  |                      |          |  |      |  |  |
| 免許・資格     |   | 小学校教諭免許必修科目  |                      |          |  |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |   | 教員経験者が全ての回を担当  |                      |          |  |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                         | 科目名   | 担当者 | 単位       | 卒業必・選                                  | 授業形態 |  |  |
|-----------|-----------------------------|---|-----|----------|--|------|--|--|
| 2         | 後期                          | 初等英語  | 辻伸幸 | 1        | 選必                                     | 演習   |  |  |
| 授業の概要     |                             | 小学校における外国語活動・外国語に必要な背景知識の理解を高め、それらを意識し関連付けて授業を構成する多様な活動を実際に展開できる英語運用力を修得する科目である。背景知識を最初に学ぶ。次に、それらを意識したり関連させたりしながら「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」「書くこと」の活動体験を通して授業実践に必要な英語運用力を身に付けることを目指す。ペアワークやグループワークなどの協働学習を組み入れ主体的、対話的に学んでいく。個人やグループでの学びの振り返りを行い到達目標の達成状況や課題の発見等も行っていく。 |     |          |  |      |  |  |
| 授業の目標     |                             | 小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を身に付ける。   |     |          |  |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                  |   |     | 各回 100 分 |  |      |  |  |
| 1         | オリエンテーション、自身の英語運用力の把握       |   |     | 8        | 活動の体験を通した英語運用力向上3<br>ゲーム               |      |  |  |
| 2         | 英語の音声、発音と綴りに関する基本的な知識       |   |     | 9        | 活動の体験を通した英語運用力向上4<br>クイズ               |      |  |  |
| 3         | 文構造、文法に関する基本的な知識            |   |     | 10       | 活動の体験を通した英語運用力向上5<br>自己紹介、地域紹介、文化紹介    |      |  |  |
| 4         | 語彙に関する基本的な知識                |   |     | 11       | 活動の体験を通した英語運用力向上6<br>コミュニケーション活動       |      |  |  |
| 5         | 第二言語習得に関する基本的な知識            |   |     | 12       | 活動の体験を通した英語運用力向上7<br>国際理解教育・国際交流活動     |      |  |  |
| 6         | 活動の体験を通した英語運用力向上1<br>チャンツや歌 |   |     | 13       | 場面や目的に応じた ALTとのコミュニケーション<br>と正書法や正しい表記 |      |  |  |
| 7         | 活動の体験を通した英語運用力向上2<br>絵本     |   |     | 14       | 授業実践に必要な知識獲得や英語運用力向上を<br>続けるための振り返り    |      |  |  |
| 成績評価方法    |                             | 定期試験 40%, 課題レポート 40%, 授業中の取り組み 20%  |     |          |  |      |  |  |
| 教科書       |                             | 『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のために — コアカリキュラムに沿って —』mpi 松香フォニックス(2017年12月) 小川隆夫・東仁美(著)  |     |          |  |      |  |  |
| 参考書       |                             | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版(2018年2月)文部科学省   |     |          |  |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                             | 指定された予習・課題を真面目に取り組む。  |     |          |  |      |  |  |
| 免許・資格     |                             | 小学校教諭免許必修科目   |     |          |  |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                             | 小学校教員として実践してきた経験者が全ての回において、外国語に関する専門的事項を指導する。   |     |          |  |      |  |  |

| 配当年次   | 開講期   | 科目名  | 担当者          | 単位       | 卒業必・選   | 授業形態 |  |  |
|--------|---|--|--------------|----------|---|------|--|--|
| 2      | 前期  | 子どもの表現Ⅱ  | 戸澁幸夫<br>桐山由香 | 1        | 選必  | 演習   |  |  |
| 授業の概要  |   | 幼児の表現活動の基礎を学ぶ科目である。子どもの表現Ⅰで学んだ、幼児の表現の基礎をさらに深める。音楽表現・造形表現領域を中心に、子どもの表現活動の内容と、発達、保育現場での表現活動について、教材研究や模擬保育を通じて実践的に学ぶ。   |              |          |   |      |  |  |
| 授業の目標  |   | <p>【造形】行事や四季の変化、子どもの発達段階との関連、また、五感を刺激し創造性を育むため、いろんな技法や材料体験ができるよう考慮し、造形表現をどのように遊びの中で展開し、主体的な活動に結びつけていくか保育現場で実践可能な内容について演習を通して学ぶ。</p> <p>【音楽】子どもの表現Ⅰで学んだ幼児の音楽表現の基礎をさらに深める。音楽あそびだけでなく、造形あそびと融合した活動を通して、表現力の幅を広げ、幼稚園や保育の現場で即戦力となる実践力をさらに高める。脚本、音楽等、オリジナルの作品をグループで作り、紙芝居に仕上げていく。グループごとに出来上がった作品の発表を行い、相互で交流し、自分たちの表現について振り返る。</p> |              |          |   |      |  |  |
| 回      | 授業のテーマ及び内容                                    |  |              | 各回 100 分 |   |      |  |  |
| 1      | オリエンテーション:授業概要の説明(戸澁幸夫・桐山由香)                  |  |              | 8        | 保育現場で活用できる題材開発(2)揮発した題材の発表・話し合い(戸澁幸夫)<br>造形表現のまとめ(戸澁幸夫) |      |  |  |
| 2      | ポリ袋で衣装を作って遊ぶ 制作方法と展開の仕方を学ぶ(戸澁幸夫)              |  |              | 9        | 音楽あそび(桐山由香)   |      |  |  |
| 3      | 幼稚園で絵画遊びを取り入れた共同制作の活動を実践と反省(戸澁幸夫)             |  |              | 10       | 音楽づくり(桐山由香)   |      |  |  |
| 4      | 段ボール造形の遊び方・制作方法と展開の仕方を学ぶ(戸澁幸夫)                |  |              | 11       | ことばのリズムや心情にあわせた音楽づくり(桐山由香)                              |      |  |  |
| 5      | 土粘土で造形遊び 活動を通して展開・声かけの方法を学ぶ(戸澁幸夫)             |  |              | 12       | お話の音楽づくり(桐山由香)  |      |  |  |
| 6      | 「メッセージ・イン・ボトル」ペットボトルの中に紙粘土等で制作した造形物を入れる(戸澁幸夫) |  |              | 13       | 紙芝居と効果音づくり(桐山由香)  |      |  |  |
| 7      | 保育現場で活用できる題材開発(1)開発の方法を学ぶ(戸澁幸夫)               |  |              | 14       | 作品発表(桐山由香)<br>音楽表現のまとめ(桐山由香)                            |      |  |  |
| 成績評価方法 |   | <p>【造形表現】<br/>           (1) 制作した作品 30%<br/>           (2) 演習カードの記述内容 10%</p> <p>【音楽表現】<br/>           (3) レポート提出 30%</p> <p>【全体】<br/>           授業への取り組み 30%</p>  |              |          |   |      |  |  |
| 教科書    |   | 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)<br>『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月)内閣府・文部科学省・厚生労働省  |              |          |   |      |  |  |
| 参考書    |   | 担当教員が作成した演習カード 適宜、資料配布、紹介する。   |              |          |   |      |  |  |

|           |  |
|-----------|--|
| 授業外の学習方法  | 【造形表現】次回演習内容のアイディアを考える。演習後演習カードのまとめをする。<br>【音楽表現】各回で履修した音楽表現を復習し、次回発表する。<br>各回1時間程度の復習を行うこと。 |
| 免許・資格     | 幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格選択必修科目  |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当  |

| 配当年次      | 開講期                  | 科目名  | 担当者  | 単位       | 卒業必・選                         | 授業形態 |  |  |
|-----------|----------------------|--|------|----------|-------------------------------|------|--|--|
| 2         | 前期                   | 幼児理解の理論と方法   | 村上凡子 | 2        | 必修                            | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                      | この科目は、幼児教育の基本となる幼児理解を主題とする科目である。幼児期の発達的特性を運動、認知、社会的能力の多角的な側面から理解し、幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の学びや成長を支えるための基本的な事柄を取り上げる。学びの過程では、つまずきや困難な状態も生じる。当事者の子どもに加えて周囲の子どもも、また保護者との関係、周りの環境にも視点を広げ、つまずきの要因を把握するための方法、望ましい対応の原則を理解できるよう、具体的な保育場面に照らし、幼稚園教育要領を踏まえて観察方法、その記録法等を学ぶ。 |      |          |                               |      |  |  |
| 授業の目標     |                      | 本科目の到達目標は、1) 幼児理解の意義、幼児の発達や学びを捉える原理を多様な面から理解し、幼児理解を深めるための教員の基礎的な態度を理解していること、2) 幼児理解を適切に行うために、保育場面の観察と記録の意義、目的、目的に応じた観察方法等に関する基礎的な事項を示すことができ、幼児のつまずきを周りの幼児や保護者との関係など多様な観点から理解することができる、3) 幼児理解を深めるために保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解していることである。                                   |      |          |                               |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容           |  |      | 各回 100 分 |                               |      |  |  |
| 1         | 幼児理解の意義と目的           |  |      | 8        | 観察及び記録の演習と記録をもとにした保育の省察       |      |  |  |
| 2         | 幼児理解のための認知発達過程の理論    |  |      | 9        | 子ども同士の相互理解と相互信頼を生み出すための基礎的な理論 |      |  |  |
| 3         | 気質・人格の発達過程からみた幼児理解   |  |      | 10       | 集中が苦手な子どもの理解と支援の原則            |      |  |  |
| 4         | 実際の造形表現を通した多面的な幼児理解  |  |      | 11       | 選択性缄默症児の理解と支援の原則一             |      |  |  |
| 5         | 運動能力からみた幼児理解         |  |      | 12       | ネグレクトを受けている子どもの成長を支えるための理解と支援 |      |  |  |
| 6         | 幼児理解のための基本的な対人態度     |  |      | 13       | 保護者への共感的理解のための基礎的な理論          |      |  |  |
| 7         | 保育場面における観察と記録の目的及び方法 |  |      | 14       | 保護者への共感的理解のための演習              |      |  |  |
| 成績評価方法    |                      | 定期試験 80%, 小テスト 10%, 予習・復習ノート 10%   |      |          |                               |      |  |  |
| 教科書       |                      | 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)<br>『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)<br>他適宜資料を配布する。  |      |          |                               |      |  |  |
| 参考書       |                      | 『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法』建帛社 小田豊他著   |      |          |                               |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                      | 1週間に1時間程度の予習、復習を課す。その内容は、毎回の要点や感想をノートにまとめる<br>こと、翌回の予習資料に関して疑問点や意見を記述することなどである。  |      |          |                               |      |  |  |
| 免許・資格     |                      | 幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目  |      |          |                               |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                      | 教員経験者が全ての回を担当  |      |          |                               |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                            | 科目名  | 担当者    | 単位       | 卒業必・選                      | 授業形態 |  |  |
|-----------|--------------------------------|--|--------|----------|----------------------------|------|--|--|
| 2         | 前期                             | 子どもの保健ⅠA   | 内海 みよ子 | 2        | 選択                         | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                                | 子どもの心身の健康と安全に関する基本的知識と、実際の保育に係わる子どもの疾病とその予防、事故防止と安全管理、母子保健対策について学ぶ科目である。保育における小児保健の重要性を理解し、心身の健康増進を図る保健活動、身体発育、生理・運動機能並びに精神機能の発達について学ぶ。  |        |          |                            |      |  |  |
| 授業の目標     |                                | <p>子どもの特徴は成長発達することである。各発達段階の特徴や子どもに多い疾患について学ぶとともに、生活環境、育児環境が子どもの健康に及ぼす影響について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもの心身の発達の特徴を理解し、健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>子どもの疾病とその予防方法及び適切な対応について理解する。</li> <li>子どもの精神保健とその課題等について理解し、子育て支援について理解する。</li> <li>保育における衛生管理、安全管理について理解する。</li> </ol> |        |          |                            |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                     |  |        | 各回 100 分 |                            |      |  |  |
| 1         | 小児保健の意義：ひとのライフサイクルの基本となる子どもの健康 |  |        | 8        | 小児保健活動：予防接種                |      |  |  |
| 2         | 子どもの成長・発達と保健：身体発育と保健           |  |        | 9        | 子どもの生活と健康：運動と睡眠            |      |  |  |
| 3         | 子どもの成長・発達と保健：生理機能の発達と保健        |  |        | 10       | 子どもの生活と健康：栄養と清潔行為          |      |  |  |
| 4         | 子どもの成長・発達と保健：運動機能発達と保健         |  |        | 11       | 子どもの生活と健康：食育、家族関係          |      |  |  |
| 5         | 子どもの成長・発達と保健：精神機能の発達と保健        |  |        | 12       | 子どもの事故とその予防：子どもの事故の特徴、救急処置 |      |  |  |
| 6         | 小児保健活動：法律と制度・施策と子育て支援          |  |        | 13       | 子どもの精神保健：乳幼児の発達と精神保健       |      |  |  |
| 7         | 小児保健活動：健診スケジュールと目的             |  |        | 14       | 子どもの精神保健：こころの健康            |      |  |  |
| 成績評価方法    |                                | 定期試験 50%, 課題・小テスト等 30%, 受講態度・授業への参加度 20%   |        |          |                            |      |  |  |
| 教科書       |                                | 『改訂 保育の中の保健 幼稚園・保育所での保健指導の理論と実践』萌文書林(平成 22 年 11 月)巷野悟郎・高橋悦二郎編  |        |          |                            |      |  |  |
| 参考書       |                                | 適宜、資料を配布する。  |        |          |                            |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                                | 週 2 時間程度の復習及び課題作成を行うこと。<br>小テスト・試験対策の時間も確保すること。  |        |          |                            |      |  |  |
| 免許・資格     |                                | 保育士資格必修科目  |        |          |                            |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                                |  |        |          |                            |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                                   | 科目名  | 担当者    | 単位       | 卒業必・選                                      | 授業形態 |  |  |
|-----------|---------------------------------------|--|--------|----------|--|------|--|--|
| 2         | 後期                                    | 子どもの保健ⅠB   | 内海 みよ子 | 2        | 選択   | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                                       | 子どもの保健ⅠAに引き続き、子どもの心身の健康と安全に関する基本的知識と、実際の保育に関わる子どもの疾病とその予防、事故防止と安全管理、母子保健対策について学ぶ。子どもの疾病とその予防・対応、精神保健、保育環境、衛生管理・安全管理、施設における健康・安全実施体制等について学ぶ。  |        |          |  |      |  |  |
| 授業の目標     |                                       | 子どもの特徴は成長発達することである。各発達段階の特徴や子どもに多い疾患について学ぶとともに、生活環境、育児環境が子どもの健康に及ぼす影響について学ぶ。<br>1.子どもの心身の発達の特徴を理解し、健康増進を図る保健活動の意義を理解する。<br>2.子どもの疾病とその予防方法及び適切な対応について理解する。<br>3.子どもの精神保健とその課題等について理解し、子育て支援について理解する。<br>4.保育における衛生管理、安全管理について理解する。 |        |          |  |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                            |  |        | 各回 100 分 |  |      |  |  |
| 1         | 子どもの疾病と保育：健康状態の把握と主な疾病的特徴             |  |        | 8        | 障害をもつ子の保育：脳性まひ、心疾患をもつ子への保育                 |      |  |  |
| 2         | 子どもの疾病の予防と適切な対応：感染とは、感染症とその予防         |  |        | 9        | 障害をもつ子の保育：軽度発達障害の子への保育                     |      |  |  |
| 3         | 子どもの疾病的予防と適切な対応：アレルギー疾患への適切な対応        |  |        | 10       | 環境及び衛生管理ならびに安全管理：保育環境整備と保健                 |      |  |  |
| 4         | 子どもの疾病的予防と適切な対応：下痢、脱水への適切な対応          |  |        | 11       | 環境及び衛生管理ならびに安全管理：保育現場における衛生環境              |      |  |  |
| 5         | 子どもの疾病的予防と適切な対応：神経・内分泌疾患への対応・他の病気への対応 |  |        | 12       | 環境及び衛生管理ならびに安全管理：保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理 |      |  |  |
| 6         | 子どもの疾病的予防と適切な対応：なにか変と思ったときの観察         |  |        | 13       | 健康及び安全の実施体制：職員間の連携と組織的取り組み                 |      |  |  |
| 7         | 子どもの疾病的予防と適切な対応：病児保育、保護者に対する支援        |  |        | 14       | 健康及び安全の実施体制：家庭・専門機関・地域との連携                 |      |  |  |
| 成績評価方法    |                                       | 定期試験 50%，課題・小テスト等 30%，受講態度・授業への参加度 20%   |        |          |  |      |  |  |
| 教科書       |                                       | 『改訂 保育の中の保健 幼稚園・保育所での保健指導の理論と実践』萌文書林(平成 22 年 11 月)巷野悟郎・高橋悦二郎編  |        |          |  |      |  |  |
| 参考書       |                                       | 適宜、資料を配布する。  |        |          |  |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                                       | 週 2 時間程度の復習及び課題作成を行うこと。<br>小テスト・試験対策の時間も確保すること。  |        |          |  |      |  |  |
| 免許・資格     |                                       | 保育士資格必修科目  |        |          |  |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                                       |  |        |          |  |      |  |  |

| 配当年次   | 開講期   | 科目名   | 担当者   | 単位       | 卒業必・選  | 授業形態 |  |  |
|--------|---|---|-------|----------|--|------|--|--|
| 2      | 後期  | 保育内容の指導法 I  | 山下 悅子 | 2        | 必修   | 演習   |  |  |
| 授業の概要  |   | 幼稚園教育要領に示された、各領域のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点、幼稚園教育における評価の考え方、領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。                             |       |          |  |      |  |  |
| 授業の目標  |   | 1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。<br>2) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。<br>3) 幼児期の教育・保育における評価の考え方を理解する。<br>4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 |       |          |  |      |  |  |
| 回      | 授業のテーマ及び内容  |   |       | 各回 200 分 |  |      |  |  |
| 1      | 1 イントロダクション<br>幼児教育・保育の目標と保育内容の指導法  |   |       | 8        | 乳幼児の発達と学びの過程：表現<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『表現』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。            |      |  |  |
| 2      | 2 乳幼児の発達と学びの過程：言葉<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『言葉』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。     |   |       | 9        | 領域『表現』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『表現』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。            |      |  |  |
| 3      | 3 領域『言葉』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『言葉』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。     |   |       | 10       | 乳幼児の発達と学びの過程：環境<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『環境』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。            |      |  |  |
| 4      | 4 乳幼児の発達と学びの過程：人間関係<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『人間関係』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。 |   |       | 11       | 領域『環境』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『環境』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。            |      |  |  |
| 5      | 5 領域『人間関係』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『人間関係』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。 |   |       | 12       | 保育構想の策定<br>資料を用いて領域間の繋がりを理解し、具体的な指導場面を想定した保育構想を作成する。                                     |      |  |  |
| 6      | 6 乳幼児の発達と学びの過程：健康<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『健康』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。     |   |       | 13       | 保育実践と改善<br>策定した保育構想を基に、役割を分担してロールプレイを行い、グループ討議を通じて評価、保育構想の修正を図る。                         |      |  |  |
| 7      | 7 領域『健康』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『健康』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。     |   |       | 14       | 幼児教育・保育における評価の考え方・まとめ<br>教育・保育の改善を目指す、評価の考え方と方法について学ぶ。授業全体を振り返り、保育内容の指導法IIに向けた学修課題を検討する。 |      |  |  |
| 成績評価方法 |   | 定期試験の成績 10%,提出物 30%,授業へ取り組む姿勢・態度 60%  |       |          |  |      |  |  |
| 教科書    |   | 適宜、資料を配布する。   |       |          |  |      |  |  |

|           |   |
|-----------|---|
| 参 考 書     | 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月)文部科学省<br>『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月)厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2018年9月)内閣府<br>・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法  | 週1時間程度、前回授業の復習を行うこと   |
| 免 許 ・ 資 格 | 幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目   |
| 実務経験と教授内容 | 幼稚園教諭経験者が全ての回を担当  |

| 配当年次      | 開講期                      | 科目名  | 担当者          | 単位 | 卒業必・選    | 授業形態                     |
|-----------|--------------------------|--|--------------|----|----------|--------------------------|
| 2         | 後期                       | 初等教科教育法(国語)  | 小林康宏<br>鈴木晴久 | 2  | 必修       | 講義                       |
| 授業の概要     |                          | 小学校教員として、国語科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの指導領域ごとに、教材研究の仕方、ICTの活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、国語科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。 |              |    |          |                          |
| 授業の目標     |                          | 学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解すると共に、基礎的な学習指導理論を理解し、教材研究や、学習指導案作成、及び、模擬授業の実施と振り返りを通し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。   |              |    |          |                          |
| 回         | 授業のテーマ及び内容               |  |              |    | 各回 100 分 |                          |
| 1         | 国語科で目指すもの:学習指導要領を読み解く。   |  |              |    | 8        | 「書くこと」の授業:模擬授業と振り返りを行う。  |
| 2         | 国語科の授業とは:授業づくりの原則を理解する。  |  |              |    | 9        | 「読むこと」の理解:指導と評価の要点を知る。   |
| 3         | 「話すこと・聞くこと」の理解:指導の要点を知る。 |  |              |    | 10       | 「読むこと」の授業作り:指導案・板書計画を作る。 |
| 4         | 「話すこと・聞くこと」の授業作り:指導案を作る。 |  |              |    | 11       | 「読むこと」の授業:模擬授業と振り返りを行う。  |
| 5         | 「話すこと・聞くこと」の授業:模擬授業を行う。  |  |              |    | 12       | 「知識及び技能」とは:指導内容を理解する。    |
| 6         | 「書くこと」の理解:指導と評価の要点を知る。   |  |              |    | 13       | 「書写」の授業作り:指導案・板書計画を作る。   |
| 7         | 「書くこと」の授業作り:指導案・板書計画を作る。 |  |              |    | 14       | 「書写」の授業:模擬授業と振り返りを行う。    |
| 成績評価方法    |                          | 定期試験の成績 30%, 毎回の授業後に提出する小レポート 30%, 模擬授業 40%  |              |    |          |                          |
| 教科書       |                          | 『小学校国語『見方・考え方』が働く授業デザイン－展開7原則と指導モデル40 プラスα－』東洋館出版社 小林康宏<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』東洋館出版社 (2018年02月)<br>文部科学省  |              |    |          |                          |
| 参考書       |                          | 適宜紹介する。<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省  |              |    |          |                          |
| 授業外の学習方法  |                          | 1週間に2時間程度の予習・復習等を行うこと。   |              |    |          |                          |
| 免許・資格     |                          | 小学校教諭免許必修科目  |              |    |          |                          |
| 実務経験と教授内容 |                          | 教員経験者が全ての回を担当(1~12回:小林康宏、13,14回:鈴木晴久)  |              |    |          |                          |

| 配当年次      | 開講期                  | 科目名   | 担当者  | 単位       | 卒業必・選                      | 授業形態 |  |  |
|-----------|----------------------|---|------|----------|----------------------------|------|--|--|
| 2         | 後期                   | 初等教科教育法(生活)   | 秋吉博之 | 2        | 必修                         | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                      | 小学校生活では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、幼児教育や他教科との連携、総合的な学習との関連を踏まえながら、社会や自然と関わる活動や自分自身の生活や成長に関する学び、模擬授業などを通して主体的・対話的で深い学びを深めるための実践的な知識と技能を身につける。 |      |          |                            |      |  |  |
| 授業の目標     |                      | 生活科の目標や内容を理解し、情報機器及び教材の活用を踏まえて、指導計画を立案して学習指導案を作成する。この学習指導案に基づいて模擬授業を実施し、その後の受講者相互の討議等を通して具体的な指導方法の知識と技能を身につける。  |      |          |                            |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容           |   |      | 各回 100 分 |                            |      |  |  |
| 1         | オリエンテーション            |   |      | 8        | 学習指導案の作成(3)完成              |      |  |  |
| 2         | 生活科の目標               |   |      | 9        | 模擬授業(1) 学校、家庭及び地域の生活に関する内容 |      |  |  |
| 3         | 生活科の内容構成             |   |      | 10       | 模擬授業 (2) 身近な人々に関わる活動に関する内容 |      |  |  |
| 4         | 指導計画の作成(1)情報機器・教材の活用 |   |      | 11       | 模擬授業 (3)社会に関わる活動に関する内容     |      |  |  |
| 5         | 指導計画の作成(2)評価         |   |      | 12       | 模擬授業 (4)自然に関わる活動に関する内容     |      |  |  |
| 6         | 学習指導案の作成(1)下書き       |   |      | 13       | 模擬授業 (5) 自分自身の生活や成長に関する内容  |      |  |  |
| 7         | 学習指導案の作成(2)仮完成       |   |      | 14       | 模擬授業の振り返り                  |      |  |  |
| 成績評価方法    |                      | 定期試験 50%, 課題(生活科学習指導案の作成) 20%, 模擬授業への取り組み 20%, 授業への取り組み 10%   |      |          |                            |      |  |  |
| 教科書       |                      | 『小学校学習指導要領解説 生活編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省   |      |          |                            |      |  |  |
| 参考書       |                      | 小学校生活検定教科書(東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、光村図書出版、新興出版社啓林館、日本文教出版)<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省   |      |          |                            |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                      | 各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回 30 分程度)<br>グループ活動の実施計画を立て、予行を行うこと。(毎回 30 分程度)<br>各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回 30 分程度)  |      |          |                            |      |  |  |
| 免許・資格     |                      | 小学校教諭免許必修科目   |      |          |                            |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                      | 教員経験者が全ての回を担当   |      |          |                            |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期  | 科目名  | 担当者   | 単位       | 卒業必・選  | 授業形態 |  |  |  |  |  |  |  |
|-----------|--|--|-------|----------|--|------|--|--|--|--|--|--|--|
| 2         | 後期   | 初等教科教育法(音楽)  | 溝口希久生 | 1        | 必修   | 演習   |  |  |  |  |  |  |  |
| 授業の概要     |  | 小学校教員を希望する学生が教育実習や現場において必要となる音楽科の実践的基礎能力を身につけることを目的とする。ビデオによる授業を視聴したり、教員による模擬授業を行ったりしながら、具体的な小学校音楽科授業像が描けるように講義する。また小学校音楽科学習指導案を作成しながら資料に沿って講義を進める。模範の事例を基本としてグループによる模擬授業を行い、小学校音楽科授業の実践的指導力の習得を目指す。 |       |          |  |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 授業の目標     |  | 小学校音楽科の授業のあり方を理解した上で模擬授業を行い、音楽科の基礎理論を根拠とした学習指導案を作成できる。   |       |          |  |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容   |  |       | 各回 100 分 |  |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 1         | オリエーテーション (講義の進め方、評価の方法、音楽科の新しい授業像・音楽科授業のビデオ視聴による感想)   |  |       | 8        | 模擬授業用学習指導案の作成と模擬授業の準備<br>・教材研究と指導案作成、視聴覚機器活用 |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 2         | 音楽科の指導内容と教材との関連<br>・歌唱 (低学年共通教材) の授業事例を交えた解説   |  |       | 9        | 学生グループによる模擬授業と検討 (歌唱)                        |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 3         | 指導内容の構成、年間指導計画<br>・歌唱 (低学年) の授業事例を交えた解説  |  |       | 10       | 学生グループによる模擬授業と検討 (歌唱)                        |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 4         | 音楽科の指導内容と教材との関連<br>・器楽 (高学年) の授業事例を交えた解説   |  |       | 11       | 学生グループによる模擬授業と検討 (器楽)                        |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 5         | 音楽科の目標と評価<br>・音楽づくり (低学年) の授業事例を交えた解説  |  |       | 12       | 学生グループによる模擬授業と検討 (器楽)                        |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 6         | 音楽科の授業デザイン<br>・音楽づくり (高学年) の授業事例を交えた解説   |  |       | 13       | 学生グループによる模擬授業と検討 (鑑賞)                        |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 7         | 音楽科の指導法 (学習指導の構造)<br>・鑑賞の授業事例を交えた解説  |  |       | 14       | 学生グループによる模擬授業と検討 (音楽づくり)                     |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 成績評価方法    |  | 模擬授業などへの取り組む姿勢・態度 40%, 学習指導案等の課題・小テスト 30% 小テスト・定期試験 30%<br>模擬授業へ取り組む積極的な姿勢・態度、課題の取組み状況や学習指導案等の提出物、試験等を総合的に評価する。  |       |          |  |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 教科書       | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省   |  |       |          |  |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 参考書       | 『新訂版 小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイン—』廣済堂あかつき (2018) 小島律子監修<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 |  |       |          |  |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 授業外の学習方法  | その回の授業を省察し練習等を行うとともに、模擬授業にむけて指導案作成や授業の準備をしておくこと。(週2時間程度)   |  |       |          |  |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 免許・資格     | 小学校教諭免許必修科目  |  |       |          |  |      |  |  |  |  |  |  |  |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当  |  |       |          |  |      |  |  |  |  |  |  |  |

| 配当年次      | 開講期  | 科目名   | 担当者  | 単位       | 卒業必・選  | 授業形態 |  |  |
|-----------|--|---|------|----------|--|------|--|--|
| 2         | 後期   | 初等教科教育法(図画工作)   | 戸澁幸夫 | 1        | 必修   | 演習   |  |  |
| 授業の概要     |  | 小学校教員として、図画工作科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。新しい指導要領の改訂の趣旨をふまえ、「表現」「鑑賞」などの指導領域ごとに、学習目標と内容を具体的な事例をもとに演習・講義する。教材研究の仕方、ICTの活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業展開の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。また、教科書研究・教材用具の体験等を通して授業づくりの発想力を培い、小学校教員として、感性を働かせながら創造することの大切さを身につけさせ現場実践力につけることを目的とする。 |      |          |  |      |  |  |
| 授業の目標     |  | 小学校図画工作科の意義と目的をもとに、教育や保育内容・方法・評価のあり方について理解する。子どもの主体的学びを支援できる授業構想力を身につけ、感性を働かせ創造的に活動する方法を理解する。   |      |          |  |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容   |   |      | 各回 100 分 |  |      |  |  |
| 1         | 授業ガイダンス (指導案作成時のパソコン・OHP・実物投影機等の活用方法や教科書・副読本等の利用方法を講義する。)                                  |   |      | 8        | 表現「立体で表す」の模擬授業と授業内容の検討   |      |  |  |
| 2         | 新しい小学校学習指導要領・幼稚園教育要領の改定のポイントについて考える  |   |      | 9        | 表現「工作で表す」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。 |      |  |  |
| 3         | 表現「造形遊び」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。  |   |      | 10       | 表現「工作で表す」の模擬授業と授業内容の検討   |      |  |  |
| 4         | 表現「造形遊び」の模擬授業と授業内容の検討  |   |      | 11       | 鑑賞教育の重要性と鑑賞活動の方法を学ぶ  |      |  |  |
| 5         | 表現「絵で表す」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。  |   |      | 12       | パソコンによる美術鑑賞のためのワークシートの作成   |      |  |  |
| 6         | 表現「絵で表す」の模擬授業と授業内容の検討  |   |      | 13       | 地域のアートイベントによるこどもワークショップの事例から学ぶ   |      |  |  |
| 7         | 表現「立体で表す」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。 |   |      | 14       | 教材開発の方法を学び、新しい教材を実際に開発する。  |      |  |  |
| 成績評価方法    |  | 学生に対する評価 提出作品 60%, 課題レポート 20%, 授業へ取り組む姿勢・態度 20%   |      |          |  |      |  |  |
| 教科書       |  | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』日本文教出版(2018年)文部科学省  |      |          |  |      |  |  |
| 参考書       |  | 『小学校指導法 図画工作 (教科指導法シリーズ)』玉川大学出版部(平成23年2月)渡邊知恵子編著  |      |          |  |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |  | 講義で出された課題を行う。   |      |          |  |      |  |  |
| 免許・資格     |  | 小学校教諭免許必修科目   |      |          |  |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |  | 全時間、教育現場の留意点について講義する。   |      |          |  |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                                      | 科目名  | 担当者   | 単位       | 卒業必・選                                    | 授業形態 |  |  |
|-----------|--|--|-------|----------|--|------|--|--|
| 2         | 後期                                       | 初等教科教育法(体育)  | 大平 誠也 | 1        | 必修                                       | 演習   |  |  |
| 授業の概要     |  | 小学校教員として、体育科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「体つくり運動」「器械運動」「走・跳の運動」「水泳」「ゲーム」「表現運動」「保健」などの指導領域ごとに、教材研究の仕方、ICTの活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、体育科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。 |       |          |  |      |  |  |
| 授業の目標     |  | 小学校体育科の目標についての理解を深め、学習指導要領の内容の配列と関連付けて教科の特性を理解する。その上で、授業を展開していく方法論を理解し、模擬授業を通して効果的な指導方法を身に付ける。レポート課題、指導案作成、模擬授業の実践、チェックリストやビデオを使用した振り返りを通して実践的指導力を育成する。受講生同士のアクティブラーニングを授業の中心に据え、主体的対話的で深い学びを促す。         |       |          |  |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                               |  |       | 各回 100 分 |  |      |  |  |
| 1         | オリエンテーション<br>～小学校で体育授業を行う教師に必要な資質と能力～    |  |       | 8        | 模擬授業① 指導案の説明と授業展開<br>～体つくり運動系～           |      |  |  |
| 2         | 体育のカリキュラム論<br>～体育授業で何を教えるのか～             |  |       | 9        | 模擬授業② 指導案の説明と授業展開<br>～陸上運動系～             |      |  |  |
| 3         | 体育科教育のこれまでとこれから<br>～その歴史的変遷～             |  |       | 10       | 模擬授業③ 指導案の説明と授業展開<br>～保健領域～              |      |  |  |
| 4         | 学習指導要領のこれまでとこれから<br>～より良い学習指導案に向けて       |  |       | 11       | 模擬授業④ 指導案の説明と授業展開<br>～器械運動系～             |      |  |  |
| 5         | 体育授業を行う教師として知っておきたいこと<br>～良い授業に存在するもの～   |  |       | 12       | 模擬授業⑤ 指導案の説明と授業展開<br>～ボール運動系（ゴール型・ネット型）～ |      |  |  |
| 6         | 学習指導案の作成<br>～単元計画と本時の学習指導案の作成～（ICTの活用含む） |  |       | 13       | 模擬授業⑥ 指導案の説明と授業展開<br>～水泳系～               |      |  |  |
| 7         | こんな時、どうする<br>～場面指導とマイクロティーチング～           |  |       | 14       | 模擬授業の総括 模擬授業の成果と課題                       |      |  |  |
| 成績評価方法    |  | 定期試験 40%, レポート課題 20%, 模擬授業のクオリティ 20%, 授業へ取り組む姿勢・態度（姿勢、発言、振り返りカード） 20%  |       |          |  |      |  |  |
| 教科書       |  | 『初等体育授業づくり入門』大修館書店 岩田靖他著<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省   |       |          |  |      |  |  |
| 参考書       |  | 『体育科教育学入門』大修館書店(平成22年4月)高橋健夫他編著<br>『体育の教材を創る』大修館書店(平成24年2月)岩田靖著<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省  |       |          |  |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |  | 次時の課題について教科書を参考にまとめておく(週1時間程度)   |       |          |  |      |  |  |
| 免許・資格     |  | 小学校教諭免許必修科目  |       |          |  |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |  | 小学校教員としての経験を生かし、体育科教育における教育現場の今日的課題を取り上げ、その課題解決に迫るとともに、授業進行のルートマップとなる指導案作成能力育成を図る  |       |          |  |      |  |  |

| 配当年次      | 開講期                             | 科目名  | 担当者  | 単位      | 卒業必・選                              | 授業形態 |  |  |
|-----------|---------------------------------|--|------|---------|------------------------------------|------|--|--|
| 2         | 後期                              | 特別活動指導論  | 谷尻 治 | 1       | 選択                                 | 講義   |  |  |
| 授業の概要     |                                 | 小学校教員として、特別活動(学級活動 児童会活動 クラブ活動 学校行事)を担当できる力の修得を目指す科目である。学習指導要領にある特別活動の意義、内容、指導法について学ぶ。学校教育における特別活動の意義、特別活動の成立事情、特別活動の理論の基礎的考察、学級活動の理論と指導方法に関する基本事項、児童会活動の指導方法に関する基本事項、学校行事の指導法の基本について扱い、模擬授業などの体験的な活動を通して基本的な指導技術習得を目指す。 |      |         |                                    |      |  |  |
| 授業の目標     |                                 | ①「特別活動」の目標、意義と役割について理解する。<br>②発達段階に即した特別活動の具体的な指導法を理解し、基本的な指導技術を会得する。<br>③特別活動分野ですぐれている実践に共通する考え方または具体的指導をもとに、特別活動の可能性と課題について学ぶ。   |      |         |                                    |      |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                      |  |      | 各回 50 分 |                                    |      |  |  |
| 1         | 「特別活動」意義と役割、目標・学習課題の設定          |  |      | 8       | 児童会活動・クラブ活動                        |      |  |  |
| 2         | 「特別活動」の歴史～誕生から現在まで～             |  |      | 9       | 学校行事指導①<br>～文化的行事・遠足・集団宿泊的行事を中心～   |      |  |  |
| 3         | 「特別活動」の現状と今日的課題<br>～新学習指導要領の観点～ |  |      | 10      | 学校行事指導②～健康安全・体育的行事を中心に～            |      |  |  |
| 4         | 体験的特別活動①～アクティビティの体験～            |  |      | 11      | キャリア形成と特別活動                        |      |  |  |
| 5         | 生徒指導と特別活動～児童理解に焦点をあて～           |  |      | 12      | 児童の権利と特別活動                         |      |  |  |
| 6         | 学級活動～著名な学級指導実践～                 |  |      | 13      | 体験的特別活動②～群読・演劇・合唱指導～               |      |  |  |
| 7         | 学級活動における教師の役割                   |  |      | 14      | これからの「特別活動」<br>～教科横断・カリキュラムマネジメント～ |      |  |  |
| 成績評価方法    |                                 | レポート・課題等 40%, 授業でのワークや成果物 60%  |      |         |                                    |      |  |  |
| 教科書       |                                 | 『教師になる「教科書』』小学館(2018年4月) 和歌山大学教職大学院編   |      |         |                                    |      |  |  |
| 参考書       |                                 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省   |      |         |                                    |      |  |  |
| 授業外の学習方法  |                                 | 授業で出す課題を次時までに行うこと。レポート(授業で説明)の作成を行うこと。   |      |         |                                    |      |  |  |
| 免許・資格     |                                 | 小学校教諭免許必修科目  |      |         |                                    |      |  |  |
| 実務経験と教授内容 |                                 | 教員経験者が全ての回を担当。   |      |         |                                    |      |  |  |

| 配当年次  | 開講期   | 科目名  | 担当者  | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態  |  |  |  |  |  |
|---|---|--|------|----|-------|-------|--|--|--|--|--|
| 2   | 通年  | 幼稚園実習 I  | 小田真弓 | 2  | 選択    | 実験・実習 |  |  |  |  |  |
| 授業の概要   |   | 幼稚園で2週間80時間の実習を行う。2年次では、見学・観察・参加・責任（部分のみ）実習を行い、園の1日の流れや幼稚園教諭の職務内容、職業倫理などについて知る。参加実習・部分実習の中で幼児と主体的にかかわり、幼児の発達理解を深めると共に、幼稚園教諭としての適性について考える。幼稚園の役割や機能、業務内容、環境構成などについて理解する。また、幼児の生活や幼稚園の実際、幼稚園教諭の業務の実際を実践的、総合的に学び、理解し、身につける。 |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 授業の目標   |   | 幼稚園の機能、幼稚園教諭の役割、幼稚園における幼児の発達や遊び、生活の様子、環境のあり方について理解を深める。また、指導案の作成、教材・教具等の準備や保育活動・幼児の発達に応じたかかわり等、実践的な知識・技能・態度を身につける。   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 授業のテーマ及び内容  |   |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 幼稚園及び幼保連携型認定こども園（3・4・5歳児）での実習：10日間  |   |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 【幼稚園における実習の内容】  |   |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習園でのオリエンテーション（具体的な目的・内容や実習方法）</li> <li>2. 幼稚園の役割と機能（教育目標や教育環境）</li> <li>3. 実務実習（園舎内外の環境整備・教材準備など）</li> <li>4. 観察実習（一日の流れ・子ども理解・保育技術・保育内容）</li> <li>5. 部分実習（発達過程と興味関心に応じた保育内容・活動や援助）</li> <li>6. 衛生・安全及び疾病予防への園内の具体的環境や配慮</li> <li>7. 実習内容の記録（幼稚園教育要領に基づく計画の理解と活用・記録に基づく省察・自己評価）</li> <li>8. 幼稚園教諭の役割と倫理<br/>(職務内容・職員間の役割分担とチームワークや連携・幼稚園教諭の役割と職業倫理)</li> </ol> |   |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 上記1～8について、実習を通して具体的に学び理解する。   |   |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 実習を通して得た学びや自己課題について「振り返りシート」に記入し提出する。   |   |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 成績評価方法  | 外部評価 50%, 実習記録 30%, 課題レポート 20%  |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 教科書   | 適宜、紹介する。  |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 参考書   | 『実例でわかる実習の日誌&指導案作成マニュアル』成美堂出版(2017年3月)矢野真他監修<br>『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 授業外の学習方法  | 実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する。<br>教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める。<br>実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める。<br>実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。     |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 免許・資格   | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目   |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 実務経験と教授内容   | 教員経験者が全ての回を担当   |  |      |    |       |       |  |  |  |  |  |

| 配当年次  | 開講期   | 科目名   | 担当者  | 単位      | 卒業必・選                              | 授業形態 |
|-------|---|---|------|---------|------------------------------------|------|
| 2     | 通年  | 幼稚園実習指導 I   | 小田真弓 | 1       | 選択                                 | 演習   |
| 授業の概要 |   | 2年次の幼稚園実習 I における事前・事後の指導を担う。実習への参加態度を身につける科目である。幼稚園教育実習の意義・心得・目的・目標・方法等の基本的理解、子どもとのかかわり、実習記録・指導計画・指導案の書き方等の実践的理義について取り上げる。また、幼稚園へ出向き、教育現場での活動の状況を観察したり、参加したりすることにより子どもの状況や幼稚園の実態について体験的に学ぶ。事後指導では、自身の実習課題を明確化し、その後の授業の中で深めていくことができるようとする。 |      |         |                                    |      |
| 授業の目標 |   | 幼稚園生活の実際や子どもの発達を理解し、教育実習のための基本的理解（意義・心得・目的・目標・方法）、実践的理義（子どもとのかかわり、実習記録・指導計画・指導案の書き方）の習得を目指す。実習終了後は、実習を振り返り、専門性や実践力を身につけるための土台と自己課題を明確化する。   |      |         |                                    |      |
| 回     | 授業のテーマ及び内容                                      |   |      | 各回 50 分 |                                    |      |
| 1     | オリエンテーション（教育実習の意義、目的、内容と方法、手続き、訪問時の留意事項等）       |   |      | 8       | 部分実習の内容と方法 I (発達に応じた読み聞かせ 絵本・紙芝居等) |      |
| 2     | 教育実習の内容と課題の明確化                                  |   |      | 9       | 部分実習の内容と方法 II (発達に応じた手遊び、わらべうた等)   |      |
| 3     | 実習の態度と留意点（実習生としての態度、子どもの人権尊重、個人情報と守秘義務、安全・衛生管理） |   |      | 10      | 部分実習の内容と方法 III (発達に応じた集団遊び等)       |      |
| 4     | 幼稚園生活の実際  |   |      | 11      | 保育観察の方法と観察記録の記入方法                  |      |
| 5     | 環境構成  |   |      | 12      | 実習日誌の書き方                           |      |
| 6     | 幼児の発達と特性  |   |      | 13      | 発達に応じた部分実習の指導案の書き方 I               |      |
| 7     | 発達に応じたかかわり方                                     |   |      | 14      | 発達に応じた部分実習の指導案の書き方 II              |      |

| 配当年次      | 開講期  | 科目名       | 担当者  | 単位                           | 卒業必・選 | 授業形態 |  |  |  |
|-----------|--|-----------|------|------------------------------|-------|------|--|--|--|
| 2         | 通年   | 幼稚園実習指導 I | 小田真弓 | 1                            | 選択    | 演習   |  |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容   |           |      | 各回 50 分                      |       |      |  |  |  |
| 15        | 教育実習の振り返り（実習日誌からの振り返り）   |           | 22   | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)    |       |      |  |  |  |
| 16        | 幼児の主体的な遊びに関する振り返りと考察   |           | 23   | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)    |       |      |  |  |  |
| 17        | 幼児の仲間関係に関する振り返りと考察   |           | 24   | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)    |       |      |  |  |  |
| 18        | 幼稚園教諭のことばがけに関する振り返りと考察   |           | 25   | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)    |       |      |  |  |  |
| 19        | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)  |           | 26   | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)    |       |      |  |  |  |
| 20        | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)  |           | 27   | 幼稚園教諭の役割と社会的役割について           |       |      |  |  |  |
| 21        | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表)  |           | 28   | 教育実習における自己評価・今後の自身の課題の明確化と展望 |       |      |  |  |  |
| 成績評価方法    | 授業での発言と発表（回数） 40%, 発言と発表の内容（着眼点） 30%, 提出物 30%  |           |      |                              |       |      |  |  |  |
| 教科書       | 『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』萌文書林(2018年)神永直美著<br>『よくわかる幼稚園実習[第三版]』創生社(2019年4月)百瀬ユカリ著<br>大学で配布する幼稚園教育実習記録                       |           |      |                              |       |      |  |  |  |
| 参考書       | 『ここがポイント!3 法令ガイドブック』フレーベル社 (2017年) 無藤隆 他著<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2017年5月)<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2017年5月) |           |      |                              |       |      |  |  |  |
| 授業外の学習方法  | ボランティアなどに参加し幼児を知る。<br>幼児が興味を持つような手遊びや歌、絵本などの教材研究を行う。   |           |      |                              |       |      |  |  |  |
| 免許・資格     | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目  |           |      |                              |       |      |  |  |  |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当  |           |      |                              |       |      |  |  |  |

| 配当年次   | 開講期  | 科目名   | 担当者  | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態  |  |  |  |  |  |
|--|--|---|------|----|-------|-------|--|--|--|--|--|
| 2後<br>3前   | 通年   | 保育実習 I (施設)   | 森下順子 | 2  | 選択    | 実験・実習 |  |  |  |  |  |
| 授業の概要  |  | 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、施設の役割と機能、施設の生活と一日の流れ、保育者の責務の理解を目指す科目である。子どもの観察とその記録を通して、子ども理解を深め、ここの状況に応じた援助の方法を学ぶ。計画に基づく活動や援助、子どもの発達に応じた対応について実践的に学ぶ。実習計画や記録を作成し、支援計画の理解と活用、記録に基づく省察・自己評価の方法について学び、専門職としての保育士の役割と倫理について考察する。 |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 授業の目標  |  | 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、利用児(者)への理解を深めるとともに、施設等の機能と専門職としての保育士の役割や倫理等、その職務について学ぶ。   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 授業のテーマ及び内容   |  |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等での実習:10日間  |  |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| <p>1. 施設の役割と機能について理解する。</p> <p>2. 施設の生活と一日の流れを理解し、参加する。</p> <p>3. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。</p> <p>4. 利用児(者)の観察や関わりを通して、個々の状態に応じた援助の必要性を理解する。</p> <p>5. 利用児(者)の最善の利益についての配慮を学ぶ。</p> <p>6. 子どもの生活や環境を通して、家庭・地域社会の現状を理解する。</p> <p>7. 支援計画を理解し、活動や援助に活かそうとする。</p> <p>8. 保育士としての役割や職業倫理を理解する。</p> <p>9. 職員間の役割分担と連携について理解する。</p> <p>10. 介護、介助及び交流等を体験する(介護等の体験)。</p> <p>11. 健康管理・安全対策への配慮について理解する。</p> <p>12. 観察・記録に基づく省察や自己評価を行い、自己課題を明確にする。</p> |  |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 成績評価方法   | 外部評価 70%, 課題レポート 10%, 積極的な実習態度 20%               |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 教科書  | 『保育所保育指針(平成29年度告示)』フレーベル館(2017年5月)<br>適宜資料を配布する。 |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 参考書  | 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社(2019)<br>適宜紹介する。             |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 授業外の学習方法   | 授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。             |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 免許・資格  | 保育士資格必修科目<br>小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。     |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |
| 実務経験と教授内容  | 実務経験者が実習責任者として担当。実習現場では現職教員が指導を行う。               |   |      |    |       |       |  |  |  |  |  |

| 配当年次  | 開講期                  | 科目名   | 担当者  | 単位                   | 卒業必・選 | 授業形態 |
|-------|----------------------|---|------|----------------------|-------|------|
| 2後～3前 | 通年                   | 保育実習指導Ⅰ(施設)   | 森下順子 | 1                    | 選択    | 演習   |
| 授業の概要 |                      | 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、施設の役割と機能、施設の生活と一日の流れ、保育者の責務の理解を目指す科目である。子どもの観察とその記録を通して、子ども理解を深め、ここの状況に応じた援助の方法を学ぶ。計画に基づく活動や援助、子どもの発達に応じた対応について実践的に学ぶ。実習計画や記録を作成し、支援計画の理解と活用、記録に基づく省察・自己評価の方法について学び、専門職としての保育士の役割と倫理について考察する。 |      |                      |       |      |
| 授業の目標 |                      | 保育実習の意義・目的及び実習の内容、子どもの人権と最善の利益の考慮や守秘義務等について理解する。実習後、自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。   |      |                      |       |      |
| 回     | 授業のテーマ及び内容           |   |      | 各回 50 分              |       |      |
| 1     | オリエンテーション・施設実習とは何か   |   | 8    | 施設実習の内容について          |       |      |
| 2     | 施設実習の意義と目的           |   | 9    | 子ども・利用者の人権と最善の利益について |       |      |
| 3     | 施設における保育士の職務内容       |   | 10   | プライバシーの保護と守秘義務       |       |      |
| 4     | 児童福祉施設についてⅠ(種類と概要)   |   | 11   | 実習の心得                |       |      |
| 5     | 児童福祉施設についてⅡ(養護系の施設)  |   | 12   | 実習日誌等の記録について         |       |      |
| 6     | 児童福祉施設についてⅢ(障害系の施設)  |   | 13   | 実習前の事前確認             |       |      |
| 7     | 児童福祉施設についてIV(育成系の施設) |   | 14   | 実習前の事前確認             |       |      |

| 配当年次      | 開講期  | 科目名                                  | 担当者                    | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |  |  |  |  |  |
|-----------|--|--------------------------------------|------------------------|----|-------|------|--|--|--|--|--|
| 2後～3前     | 通年   | 保育実習指導Ⅰ(施設)                          | 森下順子                   | 1  | 選択    | 演習   |  |  |  |  |  |
| 回         | 授業のテーマ及び内容                                     |                                      | 各回 50 分                |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 15        | 実習の振り返り(実習日誌からの振り返り)                           | 22                                   | 実習体験の共有(学びと振り返りについて発表) |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 16        | 実習の振り返り(自己課題を明確にする)                            | 23                                   | 実習体験の共有(学びと振り返りについて発表) |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 17        | 実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)                         | 24                                   | 実習体験の共有(学びと振り返りについて発表) |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 18        | 実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)                         | 25                                   | 保育者の役割と社会的役割について       |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 19        | 実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)                         | 26                                   | 実習における自己評価             |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 20        | 実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)                         | 27                                   | 実習の総括                  |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 21        | 実習体験の共有(学びと振り返りについて発表)                         | 28                                   | 課題の明確化・まとめ             |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 成績評価方法    |  | 課題・レポート等の提出物 50%、積極的な受講態度と授業の参加度 50% |                        |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 教科書       | 『保育所保育指針(平成29年告知)』フレーベル館(2017年5月)              |                                      |                        |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 参考書       | 『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房、『施設実習パーソナルガイド』わかば社(2019)、適宜紹介 |                                      |                        |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 授業外の学習方法  | 配布資料等の復習を行い、理解を深める。                            |                                      |                        |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 免許・資格     | 保育士資格必修科目<br>小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。   |                                      |                        |    |       |      |  |  |  |  |  |
| 実務経験と教授内容 | 実務経験者がすべての回を担当。                                |                                      |                        |    |       |      |  |  |  |  |  |

和歌山信愛大学  
教育学部 子ども教育学科

〒640-8022 和歌山市住吉町1番地  
TEL :073-488-3120(教学センター)  
Mail:kyogaku-c@shinai-u.ac.jp

学籍番号

氏 名